

海洋安全保障情報月報

2010年4月号



目次

2010年4月の主要事象

1. 情報要約

- 1.1 海洋治安
- 1.2 軍事動向
- 1.3 海洋境界
- 1.4 海運・造船・港湾
- 1.5 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

2. 情報分析

- 2.1 2010年第1四半期IMB報告書とソマリア海賊事案の特徴
- 2.2 2010年第1四半期におけるアジアの海賊行為と武装強盗事案
(ReCAAP2010年第1四半期報告書から)

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

リンク先 URL はいずれも、2010 年 4 月末現在、アクセス可能なものである。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、酒井英次、友森武久、向和歌奈
毛利亜樹、高田祐子

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。

2010年4月の主要事象

海洋治安：4月に入ってソマリアの海賊の活動が活発化するに伴って、EU艦隊、NATO艦隊、合同海賊対処部隊CTF-151などの各国派遣の海軍戦闘艦は、引き続き積極的な海賊対処活動を展開してきている。これらの艦隊に所属する各国海軍戦闘艦は、襲撃の通報を受けて襲撃現場に急行して、通常「母船」と2隻の小型ボートで行動する海賊グループを捉え、海賊容疑者を尋問し、発見した武器や装備を押収すると共に、「母船」と小型ボート1隻を破壊し、もう1隻に海賊容疑者を乗せて解放する、あるいはそのまま海賊容疑者を拘束するなどの対処方針を取っている。

一方、各国海軍戦闘艦が拘束した海賊容疑者は、これまで起訴のためケニアに引き渡されるのが一般的であった。しかし、ケニア当局は4月1日、海賊容疑者の起訴を停止すると共に、各国と締結した了解覚書の効力を廃棄するとの意向を表明した。こうした情勢に鑑み、国連安保理は4月27日、決議1918を全会一致で採択した。この決議は、「ソマリア沖公海上における海賊行為及び武装強盗に責任のある者を起訴できないことは国際社会の海賊対策努力を覆すものであることを確認」した上で、「当該地域諸国を含むあらゆる国家に対し、それぞれの国内法の下で海賊を刑事罰として罰し、適用可能な国際人権法に従い、同国海岸沖で逮捕された海賊及び容疑者の起訴を検討し、有罪判決を受けた者を収監することを要請」している。

韓国の船社が運航するVLCC、MT *Samho Dream* は4日、ソマリア沿岸東方970カイリのインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は1億7,000万米ドル相当のイラク原油を積載している。ソマリアの海賊によるVLCCのハイジャックは、これが3隻目である。

また、4月5日には、オランダ海軍のフリゲートが、ソマリア沿岸から東方500カイリの海域で海賊に乗り込まれたドイツ籍船のコンテナ船を救出する作戦を実施し、10人の海賊容疑者を拘束すると共に、13人の乗組員を無事保護した事案もあった。

日本船主協会は28日、ソマリア沖航行船舶の安全確保についての要望書を関係閣僚に提出した。これは、協会加盟船社が運航するコンテナ船および大型タンカーが、それぞれ4月5日と25日にアデン湾の東方沖で海賊の襲撃を受けたことから、改めて護衛活動の強化やアデン湾東方沖を航行する船舶の安全確保を政府に要望したものである。

軍事動向：「米科学者連盟」の専門家、クリステンセン研究員は19日、中国海軍が東海艦隊の潜水艦基地の近くに潜水艦消磁施設を建設したことを明らかにした。同研究員によれば、この消磁施設は、浙江省寧波市の南東約40キロにある *Kilo* 級潜水艦基地から10キロ足らず離れた場所にある。東海艦隊の消磁施設は中国海軍の2番目の施設で、最初の消磁施設は海南島の南海艦隊榆林基地付近で確認されている。SSBNを含む中国の原子力潜水艦は北海艦隊と南海艦隊に所属しているが、東海艦隊には原潜はないことから、同研究員は、北海艦隊にも間もなく消磁施設が建設されると見ている。

中国海軍の潜水艦を含む戦闘艦10隻は、4月初めから20日過ぎまで、東シナ海や沖ノ鳥島西方海域で演習を行った。この演習は、内外の注目を集めたが、本号では、「トピック」として、専門家の見解を紹介した。

海洋境界：ロシア・ノルウェー両国は27日、ヨーロッパ北部大陸棚が伸びるバレンツ海と北極海の一部を巡る、40年間に及ぶ境界画定問題の解決に合意した。1980年代のロシアの地震探査によって

確認された多くの石油・天然ガス田は、今回合意された境界線の両側にまたがっている。この合意によって、この海域における両国の石油と天然ガス資源の開発に弾みがつくと見られる。

海運・造船・港湾：イラクはこのほど、60億米ドルの巨大港の建設を決定した。同港は将来的には、世界の10大港の1つになることを目指し、欧州の顧客に対して鉄道への積み換えルートを提供することで、スエズ運河に取って代わる港になることが期待されている。

欧州最大のSTX Europeは28日、ベトナムのVung Tauに造船所を開所すると共に、建造第1船の命名式を行った。同造船所は、最高の国際水準を満たすベトナムで最新の造船所で、フル稼働すれば中型船舶を年間4隻建造可能である。

海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他：英国政府はこのほど、チャゴス諸島とその周辺海域で構成される「英領インド洋地域」周辺に、54万5,000平方キロに及ぶ海洋保護区を設定した。

情報分析：国際海事局（IMB）は21日、2010年第1四半期における（1月1日～3月31日）の世界で起きた船舶への海賊行為と武装強盗事案に関する報告書を公表した。2010年第1四半期までに通報された全発生件数は67件であった。その内訳は、既遂が37件で、その内、ハイジャックが11件で、乗り込み事案が26件であった。未遂事案は30件で、その内、発砲が18件、乗り込み未遂事案が12件であった。

ReCAAP情報共有センター（ISC）は27日、2010年第1四半期（1月1日～3月31日）におけるアジアで発生した海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。報告書によれば、2010年第1四半期の発生件数は25件で、その内、既遂が20件、未遂が5件であった。既遂事案20件の内、1件が南シナ海での事案で、他の19件は停泊地や錨泊地における船舶に対する武装強盗であった。

1. 情報要約

1.1 海洋治安

4月1日「米海軍戦闘艦、海賊の母船を拿捕」(U.S. Naval Forces Africa Public Affairs, April 1, 2010)

米アフリカ軍海軍部隊に所属する誘導ミサイルフリゲートは1日、セイシェル西方沖で、海賊の小型ボートを撃沈すると共に、乗っていた3人の海賊容疑者を拘束した。さらに、拿捕した母船と見られる船から2人の海賊容疑者を拘束した。

記事要旨：米海軍誘導ミサイルフリゲート、USS *Nicholas* (FFG 47) は1日、セイシェル西方沖で、海賊の小型ボートから銃撃され、応戦した。臨検チームが航行不能となった小型ボートを臨検し、弾薬と数缶の燃料を発見し、乗っていた3人の海賊容疑者を拘束した後、ボートを撃沈した。さらに、付近にいた母船と見られる船を拿捕し、2人の海賊容疑者を拘束した。これらの容疑者は USS *Nicholas* に移され、処分が決まるまで拘束される。USS *Nicholas* は、米アフリカ軍 (AFRICOM) 海軍部隊に所属する。

記事参照：USS *Nicholas* captures suspected pirates

<http://www.africom.mil/getArticle.asp?art=4229&lang=0>

4月1日「ケニア、海賊容疑者の受け入れ拒否を表明」(Shiptalk, April 3, 2010)

ケニア当局は1日、国内の刑務所と裁判システムがこれ以上の負担に耐えられないとして、海賊容疑者の起訴を停止すると共に、各国と締結した了解覚書の効力を廃棄するとの意向を表明した。ケニアはこれまで、100人以上の海賊容疑者を受け入れてきた。

記事要旨：ケニア当局は1日、海賊容疑者の起訴を停止すると共に、各国と締結した了解覚書の効力を廃棄するとの意向を表明した。ケニア当局は、国内の刑務所と裁判システムがこれ以上の負担に耐えられないとして、少なくとも2カ国の在ナイロビ公館に対して了解覚書の廃棄通告を送達した。ケニアは、EU、米国、カナダ、デンマーク、中国及び英国との間で、了解覚書を締結し、海賊容疑者の受け入れとモンバサでの裁判を行ってきた。在ナイロビのEU代表によれば、デンマーク及び英国と締結した覚書が廃棄された。ケニアはこれまで、100人以上の海賊容疑者を受け入れてきた。ケニアはセイシェルと共に、海賊容疑者を受け入れてきた域内国だが、最近、収監容疑者の増加と裁判の負担増に不満を表明していた。ケニアが各国と締結した了解覚書には、国連薬物犯罪事務所 (The UN Office on Drugs and Crime: UNDOC) による財政支援が含まれており、UNDOC は、これまで100万米ドルを支援してきた。一方、セイシェルも、自国の収監能力が限られているため、有罪となった海賊をソマリアで収監すべきと主張している。

記事参照：Court Napping

<http://www.shiptalk.com/?p=4165>

4月3日「トルコ海軍戦闘艦、インドのダウ船を解放」(NATO SNMG2 Press Release, April 4, 2010)

NATO 艦隊の所属するトルコ海軍フリゲートは3日、アデン湾でインド籍船のダウ船を解放した。

このダウ船は、海賊の母船として使用するために、21 人の乗組員と積荷の家畜と共にハイジャックされた船で、同艦の厳重な監視下に置かれ、海賊はダウ船を放棄して逃亡した。乗組員は無事に保護された。

記事要旨：NATO 艦隊の所属するトルコ海軍フリゲート、TCG *Gelibolu* は 3 日、アデン湾でデンマーク籍船のケミカル・タンカー、MT *Torm Ragnhild* からの 6 人の海賊に AK-47 強襲ライフルとロケット推進擲弾筒で襲撃されているとの救難信号を受信し、現場海域に急行した。該船は約 40 分間襲撃されたが、巧みな回避行動で襲撃を免れた。その後、海上哨戒機が襲撃した小型ボートが付近にいたインド籍船のダウ船、MSF *Safari Al Gayatri* に収容されていると通報した。このダウ船は間もなく、海賊の母船として使用するために、21 人の乗組員と積荷の家畜と共にハイジャックされた船であることが判明した。TCG *Gelibolu* はダウ船を厳重な監視下に置いたが、翌 4 日早朝、海賊はダウ船を放棄して逃亡した。その後、同艦の臨検チームが海賊の退去を確認し、乗組員を無事保護した。

記事参照：NATO WARSHIP FORCES RELEASE OF PIRATED DHOW

<http://www.manw.nato.int/pdf/Press%20Releases%202010/Jan%20-%20May%202010/SNMG2%202010%2010.pdf>



The pirated dhow MSF *Safari Al Gayatri* under the watchful eye of TCG *Gelibolu*

Source: <http://4.bp.blogspot.com/JDzeMOPVSVg/S7zltR6UnCI/AAAAAAAAHGw/H9ZqIKePK5I/s1600/2.jpg>

4 月 4 日「フランス海軍戦闘艦、7 人の海賊容疑者を拘束」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 5, 2010)

EU 艦隊はソマリア沖で海空協同による海賊グループの阻止作戦を強化しており、フランス海軍フリゲートは 4 日、スウェーデンの海上哨戒機が発見した海賊グループを臨検し、7 人の海賊容疑者を拘束した。

記事要旨：EU 艦隊 (EU NAVFOR) は、ソマリア沖で海空協同による海賊グループ (Pirate Action Groups: PAGs) の阻止作戦を強化している。EU NAVFOR に所属するスウェーデンの海上哨戒機は 4 日、モガディシュ東方 270 カイリの海域で母船と小型ボートからなる PAG を発見し、フランス海軍フリゲート、FS *Nivose* が現場海域に向かい、ヘリを発進させると共に、臨検チームを派遣した。臨検チームは 7 人の海賊容疑者を拘束し、小火器やロケット推進擲弾筒、梯子などを押収した。FS *Nivose* が EU NAVFOR に参加して、これが 4 回目の阻止作戦となった。

記事参照：EU NAVFOR French warship NIVOSE and Maritime Patrol aircraft continue to

intercept and disrupt Pirate Action Groups

<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=346>

4月4日「ソマリアの海賊、韓国のVLCCをハイジャック」(Reuters, April 5, 2010)

韓国の船社が運航するVLCC、MT *Samho Dream* は4日、ソマリア沿岸東方970カイリのインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は1億7,000万米ドル相当のイラク原油を積載している。

記事要旨：韓国外交通商部の5日の発表によれば、マーシャル諸島籍船で、韓国の船社が運航するVLCC、MT *Samho Dream* (319,000DWT) は4日、1億7,000万米ドル相当のイラク原油を積載して、米国のメキシコ湾に向けて航行中、ソマリア沿岸東方970カイリのインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船の乗組員は、韓国人5人とフィリピン人19人である。韓国は、ソマリア沖に派遣している駆逐艦を現場に向かわせた。ソマリアの海賊によるVLCCのハイジャックは、これが3隻目である。

記事参照：South Korea sends destroyer after pirates seize tanker

<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/04/04/AR2010040402511.html>

【関連記事】

「VLCC、ソマリア沿岸に錨泊」(Yonhap News, April 8, 2010)

MT *Samho Dream* は8日、ソマリア沿岸から約4.5カイリ離れた海域に錨泊した。韓国のソマリア派遣部隊の駆逐艦、「忠武公李舜臣」が至近距離から監視している。

記事要旨：韓国外交通商部によれば、MT *Samho Dream* は8日、ソマリア沿岸から約4.5カイリ離れた海域に錨泊した。韓国のソマリア派遣部隊、青海部隊の駆逐艦、「忠武公李舜臣」が至近距離から監視している。(8日付の *Ecoterra International* によれば、係留場所は中部ソマリアのホビョウ沖合6.5カイリの海域という。)

韓国外交通商部が10日明らかにしたところによれば、解放に向けての交渉が始まったことから、「忠武公李舜臣」は9日に現場海域を離れた。

なお、「忠武公李舜臣」は4月18日、第4次派遣部隊の駆逐艦、「姜邯賛」とソマリアでの任務を交代した。「姜邯賛」は8月末まで、米国主導の海賊対処部隊、CTF-151の旗艦を務める。(「聯合ニュース」2010年4月21日、Yonhap News, April 20, 2010)

記事参照：Hijacked S. Korean tanker arrives in Somali waters

<http://english.yonhapnews.co.kr/news/2010/04/08/0200000000AEN20100408001800315.HTML>



MT *Samho Dream*, carrying five South Korean and 19 Filipino crew members, is currently anchored some 4.5 miles off the coast of Somalia.

Source: Yonhap News, April 8, 2010

4月4日「ギリシャ海軍戦闘艦、海賊母船を破壊」(NATO SNMG2 Press Release, April 4, 2010)

NATO 艦隊に所属するギリシャ海軍フリゲートは4日、セイシェル沖合で10人の海賊容疑者が乗った海賊の母船と2隻の小型ボートを拘束し、小型ボート破壊した後、彼らを母船に乗せ、食糧と水を与えてソマリアに追い返した。

記事要旨：NATO 艦隊に所属するギリシャ海軍フリゲート、*HS Limnos* は4日、セイシェル沖合でEU 艦隊のスウェーデンの海上哨戒機からの通報を受け、同艦の艦載ヘリが海賊の母船と2隻の小型ボートを停止させた。10人の海賊容疑者が梯子やフック付きロープなどの装備を海中に投棄するのが視認された。その後、同艦の臨検チームがこれらの船を制圧し、残りの装備を押収し、小型ボート破壊した後、彼らを母船に乗せ、食糧と水を与えてソマリアに追い返した。

記事参照：NATO WARSHIP DISRUPTS PIRATE GANG

<http://www.manw.nato.int/pdf/Press%20Releases%202010/Jan%20-%20May%202010/SNMG2%202010%2009.pdf>

4月5日「ソマリアの海賊、アデン湾でKライン運航のコンテナ船を襲撃」(“K” Line News Release, April 6, 2010)

川崎汽船運航のコンテナ船（パナマ籍船）が5日16時頃、アデン湾東方250カイリの海上で、高速艇に乗った海賊から追跡、銃撃を受け、船尾に軽微な損傷を受けたが、自力航行に支障はなく、スエズ運河ポートサイド港に向け航行を続行している。

記事要旨：川崎汽船が6日に発表したところによれば、同社運航のコンテナ船（パナマ籍船）、*MV Hamburg Bridge* が現地時間5日16時頃、アデン湾東方250カイリの海上で、高速艇に乗った海賊から追跡、銃撃を受け、船尾に軽微な損傷を受けた。該船はスピードを上げジグザグに航行するなど約45分の回避行動により、海賊の襲撃を振り切った。同社の発表によれば、襲撃による負傷者や油等の流出もなく、自力航行に支障はなく、スエズ運河ポートサイド港に向け航行を続行している。

記事参照：コンテナ船“HAMBURG BRIDGE”海賊による襲撃の件

<http://www.kline.co.jp/news/2010/100406.htm>



MV Hamburg Bridge

Source: Trade Winds, April 6, 2010

4月5日「米海軍戦闘艦、10人の海賊容疑者を拘束」(U.S. Navy News Stand, April 7, 2010)

米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *McFaul* (DDG 74) は5日、オマーンのサララ沖合で、10人の海賊容疑者を拘束した。また、海賊の母船として使われていた、インドのダウ船、*Faize Osamani* から8人の乗組員が出された。

記事要旨：米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *McFaul* (DDG 74) は5日、オマーンのサララ沖合で、10人の海賊容疑者を拘束した。また、海賊の母船として使われていた、インドのダウ船、*Faize Osamani* から8人の乗組員が出された。米海軍の発表によれば、この海域を航行中の商船、MV *Rising Sun* が5日早朝、ダウ船と3隻の小型ボートから小火器とロケット推進擲弾筒で襲撃されているとの救難信号を発信すると共に、海賊対処要領、BMPに従って、増速し、放水するなどの回避行動をとった。海賊は襲撃を断念し、母船としていたダウ船、*Faize Osamani*に戻った。オマーンの哨戒艦、*Al Sharquiyah* (B 11) とUSS *McFaul*がこの救難信号に対応し、*Al Sharquiyah*が母船を発見した。同艦が*Faize Osamani*に接近すると人質となっていたダウ船の9人の乗組員が海中に飛び込み、8人が同艦に救出されたが、1人が溺死した。その後、USS *McFaul*が現場に到着した。2隻の戦闘艦に包囲された海賊は、武器を海中に投棄した後、降伏した。USS *McFaul*から発進したRHIBで2個臨検チームがダウ船の乗り込み、海賊容疑者を拘束すると共に、ダウ船を奪還した。USS *McFaul*は、USS *Dwight D. Eisenhower* (CVN 69) 打撃群に属し、米第5艦隊管轄海域で、海上治安作戦に従事している。以下は、その時の様子である。

記事参照：USS *McFaul* Captures Suspected Pirates, Rescues Crew

http://www.navy.mil/search/display.asp?story_id=52459



Members of a visit, board, search and seizure team from the guided-missile destroyer USS *McFaul* (DDG 74) inspect the Indian-flagged vessel *Faize Osamani*.

Source: http://2.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/S708Y5FrtDI/AAAAAAAAAJhU/4KwXzEuhECA/s1600/web_100405-N-0000X-003.jpg

4月5日「オランダ海軍、ハイジャック船を武力解放」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 5, 2010)

オランダ海軍のフリゲートは5日、ソマリア沿岸から東方500カイリの海域で海賊に乗り込まれたドイツ籍船のコンテナ船を救出する作戦を実施し、10人の海賊容疑者を拘束すると共に、13人の乗組員を無事保護した。

記事要旨：ドイツ籍船のコンテナ船、MV *Taipan* (12,612DWT) は5日朝、ジブチからモンバサ(ケニア)に向かって航行中、ソマリア沿岸から東方500カイリの海域で海賊に襲撃され、乗り込まれた。海賊に乗り込まれた時、該船の乗組員は、海賊対処要領、BMPに従って安全ルームに避難し、施錠した。彼らは、EU艦隊に通報する前に、該船のエンジンを停止し、航行不能にすることができた。オランダ海軍のフリゲート、HNMLS *Tromp* が現場海域に急行した。当初、同艦は、流血を回避するために海賊と交渉を試みたが、海賊は抵抗する意志を示したために、救出作戦の実施に踏み切った。同艦から発進したヘリで、6人の海兵隊員が該船に降下し、10人の海賊容疑者を拘束すると共に、13人の乗組員(ドイツ人2人、ロシア人3人、スリランカ人8人)を無事保護した。

記事参照：Pirated German ship rescued – EU NAVFOR HNMLS *Tromp* retakes pirated MV *Taipan*

<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=345>



In this image released by the Royal Dutch Navy Monday April 5, 2010, a boarding party slides down a rope from the frigate Tromp's Lynx helicopter onto the MV *Taipan*.

Source: AP Photo/Royal Dutch Navy, April 5, 2010

【関連記事】

「救出作戦、オランダ政府の承認で実施」(AP, April 7, 2010)

オランダ海軍によれば、この救出作戦は、EUの指揮系統を経由せず、オランダ政府の直接承認を受けて実施された。この作戦はオランダ海軍による初めての武力解放だが、迅速な行動を要するために、オランダ軍の指揮系統下で実施された。全ての行動はEUに通報された。

記事要旨：オランダ海軍のロッダー大佐（Hans Lodder）によれば、この救出作戦は、EUの指揮系統を経由せず、オランダ政府の直接承認を受けて実施された。大佐によれば、MV *Taipan*の乗組員が安全な防弾室に閉じこもっていることを確認した上で、6人の海兵特殊部隊要員を乗せたヘリを発進させた。海兵隊は、必要なら海賊を射殺する態勢で該船のデッキに降下したが、海賊の抵抗はなく、海兵隊を見て直ちに降伏した。この作戦はオランダ海軍による初めての武力解放だが、オランダ軍の指揮系統下で実施された。ロッダー大佐によれば、迅速な行動を要するために、自国の指揮系統下で行動したが、全ての行動はEUに通報された。EU艦隊の報道官は、オランダ海軍の行動は遅延を回避するため、合法的であったとし、迅速な行動のためには自国の指揮系統下で行動するのが最適である、と指摘している。

オランダのある専門家は、自国の軍艦旗を掲げて航行する軍艦だからこそ、こうした自国の指揮系統下での単独行動が可能であり、これが陸上における多国籍部隊によるPKO活動の場合には困難である、と指摘している。IMBのムクンダン局長は、特異な出来事だが、正しい行動であり、このことが海賊に及ぼす抑止効果を期待する、と語った。

記事参照：Dutch sidestep EU red tape to rescue German ship

<http://www.google.com/hostednews/ap/article/ALeqM5gB7YMEDuCwwY9ncDOtPAkEI4-H2wD9ETMHEG0>

4月7日「ソマリアの海賊、トルコ船をハイジャック」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 7, 2010)

トルコ籍船のばら積船が7日、ケニアのモンバサ東方約250カイリの海域でハイジャックされた。
記事要旨：トルコ籍船のばら積船、MV *Yasin C* (36,318DWT) は7日、ケニアのモンバサ東方約250カイリの海域でハイジャックされた。該船は、モンバサに向け航行中で、乗組員は25人で、全員トルコ人と見られる。

記事参照：Pirates hijack Turkish Bulk Carrier off the Somali coast

<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=348>



MV *Yasin C*

Source: Fairplay Daily News, April 8, 2010

【関連記事】

「ソマリアの海賊、トルコ船を放棄」(Fairplay Daily News, April 12, and Aktüeldeniz, April 13, 2010)

ソマリアの海賊は9日、トルコ籍船のばら積船、MV *Yasin C* を9日に放棄した。海賊は該船を離れる前に、船室を燃やしたようである

記事要旨：ソマリアの海賊は9日、トルコ籍船のばら積船、MV *Yasin C* を9日に放棄した。該船の乗組員は、海賊に乗り込まれた時、運航システムを停止し、機関室の安全ルームに施錠して閉じ籠もった。17時間後、乗組員の1人が外に出て、状況を確認したところ、海賊は該船を放棄していた。該船は、その後、モンバサに向けて航行している。以下の写真は、トルコの海事専門紙が公表したもので、海賊は該船を離れる前に、船室を燃やしたようである。

記事参照：Pirates free Turkish bulker

<http://www.mschoa.org/FairplayStoryDisplay.aspx?articlename=dn0020100412000004>

Somali Pirates: Damage to Turkish Ship "Yasin C"

<http://www.aktueldeniz.com/?news,687012056253706>



Source: Aktüeldeniz, April 13, 2010

4月7日「ソマリアの海賊、インドのダウ船3隻を放棄」(Reuters, April 7, 2010)

ソマリアの海賊はこのほど、燃料切れを理由に、ソマリア沿岸で3隻のインドのダウ船を放棄した。記事要旨：ケニアの海事専門家が7日明らかにしたところによれば、ソマリアの海賊は、燃料切れを理由に、ソマリア沿岸で3隻のインドのダウ船を放棄した。放棄された3隻は、MSV *Krishna Jyot*、MSV *Al Kadri*、MSV *Safina al-Bayatiri*である。海事専門家によれば、ソマリアの海賊はこの他に6隻のダウ船を拘留しているという。

記事参照：Somali pirates release three Indian dhows

<http://af.reuters.com/article/topNews/idAFJJOE63606I20100407>

4月10日「米海軍戦闘艦、6人の海賊容疑者を拘束」(U.S. Navy News Stand, April 10, 2010)

米第5艦隊に所属するドック型揚陸艦は10日、ジブチ沿岸約330カイリのアデン湾で、6人の海賊容疑者が乗った小型ボートを撃沈し、6人の海賊容疑者を拘束した。米艦による海賊容疑者の拘束は、過去10日間で21人となった。

記事要旨：米第5艦隊に所属するドック型揚陸艦、USS *Ashland* (LSD 48) は10日、ジブチ沿岸約330カイリのアデン湾で、6人の海賊容疑者が乗った小型ボートに対して、25ミリ砲2発を発射し、炎上、撃沈させた。この間、同艦は海賊から左舷に銃撃を受けた。6人の海賊容疑者は海上に脱出し、USS *Ashland* から発進した RHIB に救助され、同艦に収容された。同艦に目立った損傷はなく、乗組員も無事だった。

米艦による海賊容疑者の拘束は、過去10日間で21人となった。

記事参照：USS *Ashland* Captures Pirates

http://www.navy.mil/search/display.asp?story_id=52519



The burned out hull of a suspected pirate skiff drifts near the amphibious dock landing ship USS Ashland (LSD 48)

Source: http://www.navy.mil/view_single.asp?id=84184

4月11日「英海軍戦闘艦、インドのダウ船を解放」(NATO SNMG2 Press Release, April 11, 2010)

NATO 艦隊の旗艦の英海軍フリゲートは11日、アデン湾東方海域で、ソマリアの海賊にハイジャックされ、母船として利用されていたインドのダウ船を解放した。

記事要旨：NATO 艦隊の旗艦、英海軍フリゲート、HMS *Chatham* は11日、アデン湾東方海域で、ソマリアの海賊にハイジャックされ、母船として利用されていたインドのダウ船、MSV *Vishvakalyan* を解放した。HMS *Chatham* は3日間にわたって、燃料を費消させて停戦させるため、武力制圧できる距離でダウ船を追尾した。海賊はダウ船を離れるよう命じられ、小型ボートでソマリア沿岸目指して逃亡した。ダウ船の乗組員は無事であった。

記事参照：HMS CHATHAM FORCES RELEASE OF PIRATED DHOW

<http://www.manw.nato.int/pdf/Press%20Releases%202010/Jan%20-%20May%202010/SNMG2%202010%2013.pdf>



MSV *Vishvakalyan*

Source: http://www.royalnavy.mod.uk/news-and-events/rn-live/all-news/hms-chatham-forces-release-of-pirated-dhow*/changeNav/6568

4月11日「ソマリアの海賊、ア首連の訓練校所有船をハイジャック」(Trade Winds, April 11, 2010)

セントビンセント&グラナディーン籍船の Ro Ro 船、MV *RAK Afrikana* (7,561DWT) が 11 日、セイシェル西方 280 カイリの海域で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。

記事要旨：セントビンセント&グラナディーン籍船の Ro Ro 船、MV *RAK Afrikana* (7,561DWT) が 11 日、セイシェル西方 280 カイリの海域で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は、アラブ首長国連邦の訓練校、RAK Training Shipping の所有船で、現在エンジン故障のため航行停止中で、26 人の乗組員は安全区画に閉じこもっているという。

記事参照：RAK Afrikana hijacked 購読者のみアクセス可能



MV *RAK Afrikana*

Source: [Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 11, 2010](#)

4月13日「中国第5次派遣艦隊、活発化するソマリアの海賊活動への対策強化」(解放軍報電子版、2010年4月13日、23日)

中国の解放軍報の報道によれば、アデン湾・ソマリア付近の海況の好転による海賊活動の活発化に対応して、中国派遣艦隊は、監視・パトロールの強化、海賊に対する厳格な対応、海賊対策演習の実施による兵員の対応能力の向上、各国の護衛部隊との海賊情報の交換などの実務協力の強化といった措置をとっている。

記事要旨：中国の解放軍報は、13日と18日の2回にわたって、モンスーンの季節が終わり、アデン湾・ソマリア付近の海況が好転し、海賊活動が再び活発化していると報じた。報道によれば、海賊活動は次のような変化がみられるという。

- ①海賊の活動海域が東経 66 度線まで東に拡大し、南はタンザニア東南、マダガスカル近海沖、西北インド洋にまで至っている。
- ②襲撃船舶も、低速で航行する商船だけでなく、小型帆船や漁船、高速で航行する船舶、大型タンカーやばら積船など、多様である。
- ③各艦から派遣される臨検チームによる臨検前に、武器を海中に投棄したり、襲撃の際に使用する梯子を水中に隠したりして臨検をすり抜けようとするなど、手口が巧妙化している。

中国第5次派遣艦隊の指揮官、張文旦南海艦隊副参謀長は、3月だけでもアデン湾・ソマリア海域、アフリカ東部、そしてアラビア海などの海域で 51 件の襲撃事件が発生しており、襲撃の成功率が高まっていると語っている。張文旦司令によれば、このような海賊活動の活発化に対応して、艦隊は次のように措置を講じている。第1に、監視・パトロールの強化、第2に海賊活動と船舶の航行が頻繁な海域におけるヘリによる空中警戒の実施、第3に海賊に厳格な態度で臨むこと、第4に海賊対策演習を実施することで、突発的な状況における兵員の対応能力の向上、第5に各国の護衛部隊との海賊情報の交換などの実務協力の強化である。

記事参照：原文は中国語

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-04/13/content_25348.htm

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-04/23/content_26175.htm

【関連記事】

「中国第5次ソマリア沖派遣艦隊、中国籍商船の乗船警備を実施」(PLA Daily, April 12, 2010)

中国第5次ソマリア沖派遣艦隊の誘導ミサイル駆逐艦「広州」は11日、中国遠洋運輸集団所有の4隻の商船に対する3日間の乗船警備のために、16人の完全装備の特殊作戦要員と2人の証拠収集要員を派遣した。

記事要旨：中国第5次ソマリア沖派遣艦隊の誘導ミサイル駆逐艦「広州」は11日、中国遠洋運輸集団(COSCO)所有の4隻の商船、MV *Yonghuan*、MV *Kongquesong*、MV *Longfa*、MV *Huaqiang* に対する乗船警備のために、16人の完全装備の特殊作戦要員をヘリと小型ボートで派遣した。解放軍報の2人の記者は撮影と証拠収集要員として、4人の特殊作戦要員と共に、3日間にわたる乗船警備のために、MV *Yonghuan* に乗船した。乗船後、特殊作戦要員は、該船の海警監視区画と海賊対処計画を点検すると共に、25人の乗組員に対して警護や海賊対処の在り方について講義した。

記事参照：5th Chinese naval escort taskforce sends special operation troops to merchant ships

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-04/12/content_4139562.htm

4月18日「ソマリアの海賊、タイの漁船3隻ハイジャック」(Reuters, April 20, 2010)

ソマリアの海賊は18日、インド洋でタイの漁船3隻、*Prantalay 11*、*12*、*14*をハイジャックし、乗組員77人を人質とした。

記事要旨：ソマリアの海賊は18日、インド洋でタイの漁船3隻、*Prantalay 11*、*12*、*14*をハイジャックし、乗組員77人を人質とした。ワングラ東アフリカム船員支援計画代表によれば、これらの漁船は、モルディブとインドとの間の海域で操業していた。

記事参照：Pirates take 3 Thai ships with 77 crew

<http://ca.reuters.com/article/topNews/idCATRE63J30R20100420>

4月18日「トルコ海軍、海賊容疑者13人を拘束」(AP, April 18, 2010)

NATO艦隊所属のトルコ海軍フリゲート、TCG *Gelibolu* は18日、セイシェル沖で、2隻の小型ボートを拘束し、13人の海賊容疑者を拘束すると共に、武器類を押収した。

記事要旨：トルコ海軍によれば、NATO艦隊所属のトルコ海軍フリゲート、TCG *Gelibolu* は18日、セイシェル沖で、2隻の小型ボートを拘束し、13人の海賊容疑者を拘束すると共に、武器類を押収した。現場海域は、ケニアのモンバサに向うトルコの貨物船の航路上であった。

記事参照：Turkish navy commandos capture pirates

<http://www.google.com/hostednews/ap/article/ALeqM5gB7YMEDuCwwY9ncDOtPAkEI4-H2wD9F5HJ6O0>

4月19日「仏海軍補給艦、6人の海賊容疑者を拘束」(EU NAVFOR, Press Release, April 21, 2010)

フランス海軍補給艦、FS *Somme* は19日夜、ソマリア沿岸から400カイリの海域で、2隻の小型ボートに乗った6人の海賊から攻撃された。海賊は、同艦のシルエットを商船と誤認して、銃撃した。

FS *Somme* は、海賊の母船を破壊すると共に、小型ボート 1 隻と 6 人の海賊容疑者を拘束した。

記事要旨：フランス海軍補給艦、FS *Somme* は 19 日夜、ソマリア沿岸から 400 カイリの海域で、2 隻の小型ボートに乗った 6 人の海賊から攻撃された。FS *Somme* は、攻撃された時、EU 艦隊戦闘艦に補給中であった。海賊は、同艦のシルエットを商船と誤認して、銃撃した。FS *Somme* は警告射撃を行ったが、2 隻の小型ボートは別々に逃亡した。FS *Somme* は、小型ボートを追跡中、母船と見られる別のボートを発見した。小型ボートから 2 人の海賊が乗り込んだ母船は拘束され、燃料と兵器、装備類が押収された。母船は破壊され、沈没した。FS *Somme* はその後、4 人の海賊が乗った別の小型ボートを拘束した。小型ボート 1 隻と 6 人の海賊容疑者は FS *Somme* に拘束されている。

FS *Somme* は 2009 年 10 月 19 日にも、海賊の攻撃されており、その時は 5 人海賊容疑者と小型ボートを拘束した。

記事参照：Pirates attack French Military Replenishment Ship SOMME – 6 pirates captured

<http://www.eunavfor.eu/2010/04/pirates-attack-french-military-replenishment-ship-somme-%e2%80%93-6-pirates-captured/>

4 月 21 日「ポルトガル、EU 艦隊に海上哨戒機派遣」(EU NAVFOR, Press Release, April 21, 2010)

ポルトガルが EU 艦隊に派遣した海上哨戒機が 21 日、セイシェルに到着した。海上哨戒機は今後 4 カ月間、EU 艦隊の指揮下で、ソマリア周辺海域を哨戒する。

記事要旨：ポルトガルが EU 艦隊に派遣した海上哨戒機、P3 *Papa* は 21 日、セイシールのビクトリア空港に到着した。海上哨戒機は、今後 4 カ月間、EU 艦隊の指揮下で、ソマリア周辺海域を哨戒する。ポルトガルが海上哨戒機を派遣するのは、今回が初めてである。

記事参照：Portugal's first MPRA mission for EU NAVFOR

<http://www.eunavfor.eu/2010/04/portugal%e2%80%99s-first-mpra-mission-for-eu-navfor/>



Portuguese MPRA p3 *Papa*

4 月 21 日「ソマリアの海賊、ギリシャ船をハイジャック」(Trade Winds, April 21, 2010)

パナマ籍船で、ギリシャの船社が運航するばら積船、MV *Voc Daisy* は 21 日、オマーンのサララ港南東 190 カイリ沖のアデン湾で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。

記事要旨：パナマ籍船で、ギリシャの船社が運航するばら積船、MV *Voc Daisy* (47,200DWT) は 21 日、オマーンのサララ港南東 190 カイリ沖のアデン湾で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は、アラブ首長国連邦からスエズ運河に向かって航行中で、ハイジャックされたのは安全回廊 (IRTC) に入る予定の数時間前であった。乗組員はフィリピン人 21 人で、乗り込まれた時、ブリッジのスペースに鍵をかけて少しの間閉じこもったが、外部からのアドバイスにより外に出たと思われる。乗組員 21 名に怪我はないと見られる。

記事参照：購読者のみアクセス可能



MV Voc Daisy

Source: <http://www.shipspotting.com/modules/myalbum/photo.php?lid=961344>

4月25日「スペイン海軍、海賊グループを拘束」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 26, 2010)

スペイン海軍フリゲートは25日、セイシェル北西のソマリア沿岸で、1隻の母船と2隻の小型ボートからなる海賊グループを拘束し、母船と小型ボート1隻を破壊し、もう1隻の小型ボートに海賊容疑者を移し、ソマリア沿岸に送り返した。

記事要旨：EU艦隊に所属するスペイン海軍フリゲート、ESPS *VICTORIA* は25日、セイシェル北西のソマリア沿岸で、1隻の母船と2隻の小型ボートからなる海賊グループを拘束した。ESPS *VICTORIA* は、母船と小型ボート1隻を破壊すると共に、大量の燃料や海賊の装備類を押収した。乗っていた海賊容疑者は、もう1隻の小型ボートに移され、必要な装備を与えられてソマリア沿岸に送り返された。

記事参照：EU NAVFOR Frigate Victoria destroys pirate vessels
<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=369>

4月26日「オランダ海軍、根拠地近くで海賊の母船を拿捕」(Radio Netherlands Worldwide, April 26, 2010)

EU艦隊に所属するオランダ海軍揚陸艦、HNLMS *Johan de Witt* はこのほど、ソマリアの海賊の根拠地、ハーラデーレとホビョウ付近で、2隻の海賊母船を拿捕した。海軍戦闘艦がソマリアの海賊の洋上への進出を阻止したのは、これが初めてである。

記事要旨：EU艦隊に所属するオランダ海軍揚陸艦、HNLMS *Johan de Witt* はこのほど、ソマリアの海賊の根拠地、ハーラデーレとホビョウ付近で、2隻の海賊母船を拿捕した。海軍戦闘艦がソマリアの海賊の洋上への進出を阻止したのは、これが初めてである。オランダ海軍によれば、揚陸艦から発進した2隻の揚陸艇が海賊の根拠地付近に展開し、揚陸艦は2隻の中間にあって指揮する態勢で、根拠地を監視した。この態勢で、まず海賊の母船を拿捕し、武器装備を押収した。逃亡を図ったもう1隻の母船も拿捕された。この新たな戦術は、海賊活動がアデン湾からインド洋に広く拡散してきていることから、ソマリア沿岸の監視を強化することで、海賊の洋上への進出を阻止することが狙いである。以下の写真は、その時の様子である。

記事参照：Pirate activity nipped in the bud
<http://www.rnw.nl/english/article/pirate-activity-nipped-bud>



Source: Radio Netherlands Worldwide, April 26, 2010

4月25日「川崎汽船所有 VLCC、アラビア海で海賊に襲撃、船体一部損傷」(Trade Winds, April 26, and K Line HP, April 28, 2010)

川崎汽船海外子会社所有の VLCC、MT *Isuzugawa* は 25 日、アラビア海でソマリアの海賊に襲撃され、船体の一部が損傷した。同社の HP によれば、該船は、自力航行に支障はなく、目的地である日本に向け航行を継続している。

記事要旨：川崎汽船海外子会社所有の VLCC、MT *Isuzugawa* (300,000DWT) は 25 日、アラビア海でソマリアの海賊に襲撃され、船体の一部が損傷した。同社の HP によれば、該船はパナマ船籍で、乗組員はインド人とフィリピン人で、日本向け積荷航海中、2 隻の高速艇に乗った海賊から追跡、銃撃を受け、船体に軽微な損傷を受けた。該船はスピードを上げ、ジグザグに走るなど、約 60 分の回避行動により海賊の襲撃を振り切った。襲撃による負傷者はなく、油等の流出もないという。該船は、自力航行に支障はなく、目的地である日本に向け航行を継続している。

記事参照：VLCC "ISUZUGAWA" Attacked by Pirates at Arabian Sea

http://www.kline.co.jp/news/2010/100428_e.htm

Trade Winds は購読者のみアクセス可能



MT *Isuzugawa*

Source: Trade Winds, April 26, 2010

4月27日「国連安保理、海賊の処罰に関する決議案を可決」(UN Security Council, Resolutions, April 27, 2010)

国連安保理は27日、決議1918を全会一致で採択した。この決議は、「ソマリア沿岸沖で逮捕された海賊及び容疑者の起訴を検討し、有罪判決を受けた者を収監することを要請」している。

記事要旨：国連安保理は27日、決議1918を全会一致で採択した。この決議は、「ソマリア沖公海上における海賊行為及び武装強盗に責任のある者を起訴できないことは国際社会の海賊対策努力を覆すものであることを確認」した上で、「当該地域諸国を含むあらゆる国家に対し、それぞれの国内法の下で海賊を刑事罰として罰し、適用可能な国際人権法に従い、ソマリア沿岸沖で逮捕された海賊及び容疑者の起訴を検討し、有罪判決を受けた者を収監することを要請」している。更に、決議は、そのための可能なオプションに関して、国連事務総長に3ヶ月以内に報告するよう求めている。

記事参照：国連安保理決議

<http://daccess-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/GEN/N10/331/39/PDF/N1033139.pdf?OpenElement>

4月28日「日本船主協会、ソマリア沖航行船舶の安全確保について要望書を政府に提出」(日本船主協会 HP、2010年4月30日)

日本船主協会は28日、ソマリア沖航行船舶の安全確保についての要望書を、関係閣僚に提出した。

記事要旨：日本船主協会は28日、ソマリア沖航行船舶の安全確保についての要望書を関係閣僚に提出した。これは、協会加盟船社が運航するコンテナ船および大型タンカーが、それぞれ4月5日と25日にアデン湾の東方沖で海賊の襲撃を受けたことから、改めて護衛活動の強化やアデン湾東方沖を航行する船舶の安全確保を政府に要望したものである。

記事参照：社団法人・日本船主協会

<http://www.jsanet.or.jp/pressrelease/2010/20100430.html>

要望書：<http://www.jsanet.or.jp/pressrelease/2010/pdf/20100428.pdf>

4月29日「マルタ・ソマリア派遣船舶護衛部隊、任務開始」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 29, 2010)

マルタがEU艦隊に派遣した、「船舶護衛分遣隊」(the Vessel Protection Detachment: VPD)は29日、世界食糧計画(WFP)の輸送船に搭乗し、最初の護衛任務を開始した。12人の要員からなるVDPは4か月間の予定で派遣されている。

記事要旨：マルタがEU艦隊に派遣した、「船舶護衛分遣隊」(the Vessel Protection Detachment: VPD)は29日、アデン湾に面したソマリア北部のボサーソからベルベラまで、世界食糧計画(WFP)の輸送船に搭乗し、最初の護衛任務を開始した。12人の要員からなるVDPは普段は、オランダ海軍揚陸艦、HNLMS *Johan de Witt* に搭乗している。マルタはVDPを4か月間の予定で派遣しており、この派遣は、EUの共通安全保障防衛政策の下で派遣された、初めての戦闘任務である。

記事参照：Malta's first EU NAVFOR operational mission protects World Food Programme (WFP) ship Mustafa-H

<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=372>

4月29日「フランス海軍、海賊グループを拘束」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 30, 2010)

フランス海軍のフリゲートは29日、ソマリア沿岸から東方に約480カイリ離れたインド洋で、母船と2隻の小型ボートを破壊し、乗っていた11人の海賊容疑者を拘束した。

記事要旨：EU艦隊に所属するフランス海軍のフリゲート、FS *Nivose* は29日、ソマリア沿岸から東方に約480カイリ離れたインド洋で、母船と2隻の小型ボートからなる海賊グループを発見し、停船させ、臨検チームが乗り込んだ。船内から海賊の装備類が発見された。FS *Nivose* は、母船と2隻の小型ボートを破壊すると共に、乗っていた11人の海賊容疑者を拘束した。

記事参照：EU NAVFOR French warship destroys Pirate mother ship

<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=373>

1.2 軍事動向

4月3日「インド・シンガポール、合同海軍演習開始」(The Times of India, April 3, 2010)

インド・シンガポール両国海軍は3日、合同海軍演習、SIMBEXを開始した。演習は、最初はアングマン海で、次いでベンガル湾で16日まで実施される。

記事要旨：インド・シンガポール両国海軍は3日、合同海軍演習、SIMBEXを開始した。17回目となる今年の演習は、2つの海域、最初はアングマン海で、次いでベンガル湾で16日まで実施される。この演習には、インドから、航空機とヘリに加えて、駆逐艦、INS *Ranvir*、高速攻撃艇、INS *Batti Malv*、両用戦艦、INS *Mahish*、補給艦、INS *Jyoti* 及びキロ級潜水艦が参加する。シンガポールからは、フリゲート、RSS *Intrepid* とミサイルコルベット、RSS *Victory* が参加する。

記事参照：India and Singapore begin naval wargames

<http://timesofindia.indiatimes.com/india/India-and-Singapore-begin-naval-wargames/articleshow/5756055.cms>



RSN and IN ships exercising in the Bay of Bengal

Source: MINDEF, Singapore, Press Release, April 16, 2010

4月17日「中国第4次ソマリア沖派遣艦隊、帰途フィリピンを訪問」(Xinhua, April 17, 2010)

中国第4次ソマリア沖派遣艦隊は17日、フィリピン海軍の招待による13日からの5日間にわたるマニラ訪問を終え、帰国の途に就いた。

記事要旨：中国第4次ソマリア沖派遣艦隊(TF-525)は17日、フィリピン海軍の招待による13日からの5日間にわたるマニラ訪問を終え、帰国の途に就いた。TF-525は、誘導ミサイル駆逐艦「馬鞍山」、同「温州」及び総合補給艦「千島湖」から構成され、ソマリア沖での128日間に及ぶ任務遂行中、フィリピン籍船6隻を含む600隻以上の船舶を護衛した。マニラ滞在中、指揮官の邱延鵬ら一行がフィリピン軍総参謀長、国防副大臣、フィリピン艦隊司令部参謀長、マニラ市警察局長らと会見した。

記事参照：Chinese Naval fleet leaves Manila for home

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-04/18/content_4146737.htm

4月19日「中国、2番目の潜水艦消磁施設を建設」(Federation of American Scientist, April 19, 2010)

「米科学者連盟」の専門家、クリステンセン研究員は19日、中国海軍が東海艦隊の潜水艦基地の近くに潜水艦消磁施設を建設したことを明らかにした。同研究員によれば、この消磁施設は、浙江省寧波市の南東約40キロにある*Kilo*級潜水艦基地から10キロ足らず離れた場所にある。東海艦隊の消磁施設は中国海軍の2番目の施設で、最初の消磁施設は海南島の南海艦隊榆林基地付近で確認されている。SSBNを含む中国の原子力潜水艦は北海艦隊と南海艦隊に所属しているが、東海艦隊には原潜はないことから、同研究員は、北海艦隊にも間もなく消磁施設が建設されると見ている。

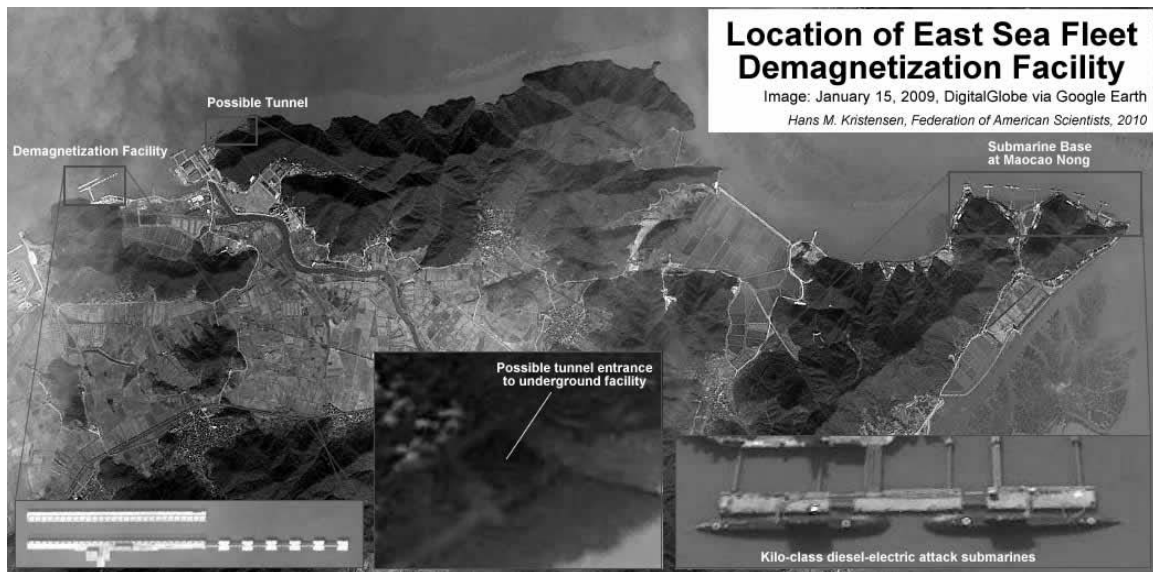
記事要旨：「米科学者連盟」(Federation of American Scientist: FAS)の専門家、クリステンセン(Hans M. Kristensen)研究員は19日、中国海軍が東海艦隊の潜水艦基地の近くに潜水艦消磁施設を建設したことを明らかにした。同研究員によれば、この消磁施設は、浙江省寧波市の南東約40キロにある*Kilo*級潜水艦基地から10キロ足らず離れた場所にある。この消磁施設は、2007年8月から2008年3月までに建設された。東海艦隊の消磁施設は中国海軍の2番目の施設で、最初の消磁施設は海南島の南海艦隊榆林基地付近で確認されている。南海艦隊の施設は、2006年1月から2008年2月の間に建設された。2カ所の消磁施設は、中国の現有潜水艦戦力の所要に対応することができると思われる。2カ所の消磁施設は、構造上は同じだが、若干の相違がある。南海艦隊の消磁施設はC字型で、米国の消磁施設と同じである。東海艦隊の消磁施設は河口にあり、2本の並列棧橋で構成されており、恐らく強い潮流に対応するためと思われる。

消磁施設は、敵の潜水艦や水上戦闘艦艇による探知を困難にするために、配備前に艦艇の金属部分の磁気を除去する装置である。これによって、金属部の船体からの磁気によって艦艇が触雷する危険が軽減されると共に、艦艇の速度も強化される。2カ所の消磁施設では、定期的に潜水艦と水上艦艇の消磁が行われている。米国のSSBNは、太平洋岸ではワシントン州バンゴール近郊のキットサップ(Kitsap)潜水艦基地で消磁されている。大西洋岸にも同様の施設がある。

クリステンセン研究員によれば、SSBNを含む中国の原子力潜水艦は北海艦隊と南海艦隊に所属しているが、東海艦隊には原潜はない。従って、同研究員は、北海艦隊にも間もなく消磁施設が建設されると見ている。そして、同研究員は、新たな消磁施設の建設は中国の新たな技術の獲得を示すものであり、「この消磁施設の建設は、今後中国と米国・東アジアの同盟国間の域内における追跡競争が激化する明らかな兆候である」と指摘している。

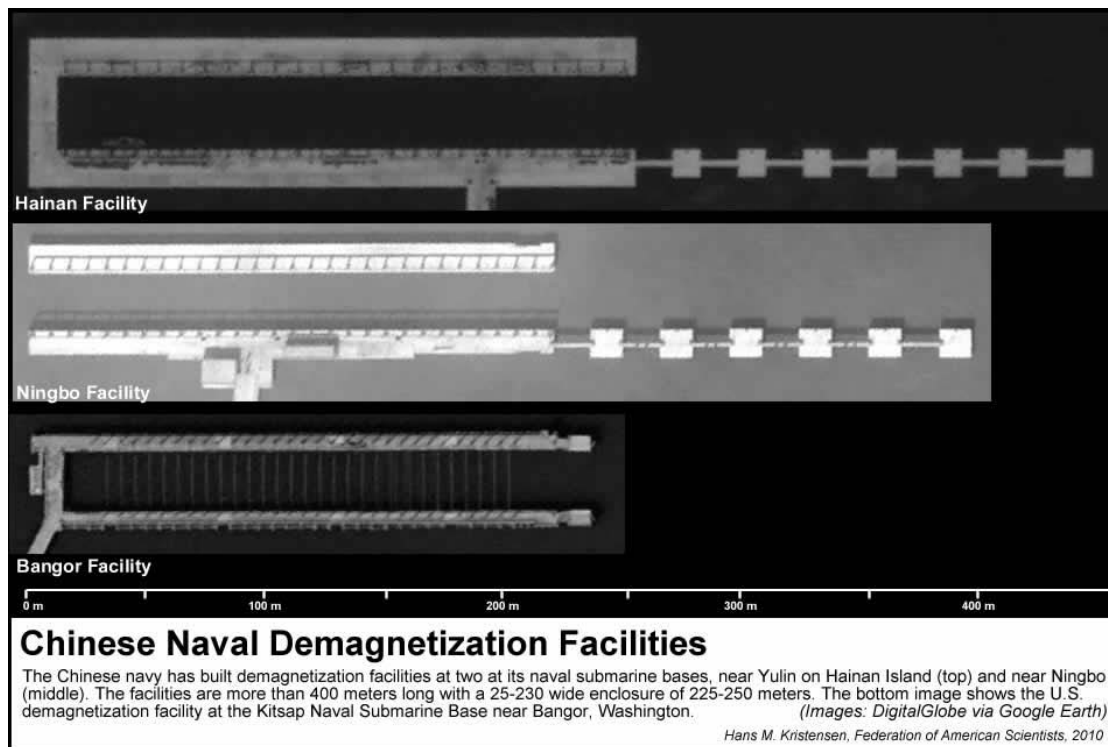
記事参照 : Second Chinese Naval Demagnetization Facility Spotted

<http://www.fas.org/blog/ssp/2010/04/demag.php>



The East Sea Fleet demagnetization facility is located near a submarine base south of Ningbo.

Source: <http://www.fas.org/programs/ssp/nukes/images/demag-map.jpg>



China's two known naval demagnetization facilities are similar, capable of handling all Chinese submarine sizes, and similar in design to U.S. demagnetization facilities.

Source: <http://www.fas.org/programs/ssp/nukes/images/demag.jpg>

4月29日「インド海軍初の国産ステルス・フリゲート、就役」(RIA Novosti, April 29, 2010)

インド海軍は29日、初の国産ステルス・フリゲート、INS *Shivalik* を就役させた。同艦は、3隻建造の *Shivalik* 級フリゲートの1番艦である。

記事要旨：インド海軍は29日、初の国産ステルス・フリゲート、INS *Shivalik* を就役させた。同艦は、全長142.5メートル、幅16.9メートル、排水量6,200トンで、18ノットの巡航速度で5,000カイリの航続距離、士官35人を含む乗員257人である。同艦は、3隻建造の *Shivalik* 級フリゲートの1番艦である。インド海軍のアントニー司令官は式典で、海軍の方針が「購入する海軍から建造する海軍」(a "Buyer's Navy to a Builder's Navy") に大きく変換したと強調した。

記事参照：Indian Navy commissions first indigenous 'stealth' frigate

<http://en.rian.ru/world/20100429/158806943.html>


 トピック
 

中国海軍の演習—専門家の見解

中国海軍の潜水艦を含む戦闘艦 10 隻は、4 月初めから 20 日過ぎまで、東シナ海や沖ノ鳥島西方海域で演習を行った。この演習は、内外の注目を集めたが、本号では、専門家の見解について、4 月 23 日付けの Asia Times Online の記事と毛利亜樹氏（同志社大学）の論考を紹介する。

1. 「中国海軍の演習—専門家の見解」(Asia Times Online, April 23, 2010)

在米のジャーナリスト、ピーター・ブラウンは、4 月 23 日付けの Asia Times Online で、今回の中国海軍の演習について、何人かの専門家の見解を紹介している。以下は、その要旨である。

英国の国際戦略研究所 (IISS) の中国専門家、リー (Gary Li) は、今回の中国海軍の行動は極めて重要で、中国が海軍の遠距離到達能力と新たな発展段階への到達を誇示することを躊躇しないとの明確なメッセージを域内諸国に示す、前例のない試みである、と指摘している。

米国の the Nixon Center の中国部長、トンプソン (Drew Thompson) は、最近の日本周辺における中国海軍の「外洋海軍」活動は中国海軍のその発展段階において新たな段階に入ったことを示すものではない、と見ている。トンプソンは、中国海軍は長年にわたって沿岸から遠く離れた海域において行動すると共に、陸海空の緊密な共同による統合作戦を遂行する能力の拡大を目指してきており、従って、「今回の演習は拡充されてきた能力、あるいは少なくとも積極的に整備してきた装備を試す意志を誇示するものであるが、新たな発展段階を示すというよりは、これまでの努力の継続と見るべきである」と指摘している。

米国の the Center for a New American Security のフェロー、デンマーク (Abraham Denmark) は、中国海軍が沖縄近海を通航したことは中国の将来動向が不透明であるということをも日本やアジア太平洋地域の米国の同盟国に思い起こさせたとし、「中国が今後、対立的に、そして軍事的にアグレッシブになる可能性に備えて、軍事的なヘッジを備えておくことが重要である」と述べている。デンマークによれば、中国海軍は長年にわたって、2 つの主要任務、即ち本土を防衛すると共に、台湾有事に関連して、西太平洋でアクセス拒否、地域拒否作戦を遂行する任務を担ってきた。この演習はまた、中国海軍が重要な SLOC を防衛することをますます重視していくことになる証左といえるかもしれない。胡錦濤主席は、中国海軍のこの任務を、「新たな歴史的任務」と意義づけている。デンマークは、「中国は、経済発展の継続のためには、海外の資源や市場へのアクセスが重要であることを次第に認識してきている。例えば、中国の輸入石油の 80% がマラッカ海峡を通る。しかし、現在のところ、中国海軍は遠距離の SLOC を防衛する能力を持っていない。このため、中国の軍事指導層は、中国海軍の第 3 の任務、SLOC 防衛を演練することに力を入れ始めた」と見ている。

米国の International Assessment and Strategy Center のフェロー、フィッシャー (Richard Fisher) は、「中国は新たな陸上基地及び宇宙基地長距離監視能力と多数の陸上基地航空機に支援された、潜水艦、長距離防空能力及び補給支援艦を含む、少なくとも 2 個の多角的なプラットフォームからなる洋上戦闘グループを展開させた」と指摘している。その上で、フィッシャーは、「今後 10 年以内に、2 隻の空母、より大型の駆逐艦、更には潜水艦発射の対艦弾道ミサイルを装備する可能性がある。米国と日本が適切な投資を怠れば、2020 年半ば頃までに、西太平洋における支配的な優位を

失うことになる」と警告している。

米海軍大学中国海洋研究所准教授のエリクソン (Andrew Erickson) は、中国の最近の宇宙配備システムを含む、ISR 能力の強化に言及し、中国が係争海域周辺に沿って作戦行動を展開する前例のない能力を開発しつつあると指摘した上で、この演習を、1982年から1988年まで海軍司令員を務めた、劉華精が初めて提示した戦略目標を追求する最終的で全面的な準備ができたことを明確に示すものである、と見ている。要するに、中国海軍は今や、いわゆる「第1列島線」を超えて、「遠海防衛」作戦を遂行し始めたということである。

記事参照：China's navy cruises into Pacific ascendancy

<http://www.atimes.com/atimes/China/LD22Ad01.html>

2. 「沿岸を守り、近海で争い、遠洋に赴く」：東アジア海域でより攻撃的になる中国海軍

毛利亜樹：同志社大学法学部政治学科助教

今日の中国海軍は西太平洋大に展開し、遠洋における経験を積み重ねている。2008年12月より、南海艦隊と東海艦隊は、ミサイル駆逐艦と補給艦から成る艦隊をアデン湾・ソマリア沖に派遣している。当該海域における数カ月にもわたる護衛活動を通じ、南海艦隊と東海艦隊は遠洋経験を積むと同時に、艦隊交代時に共同護衛を行っている。4月下旬の執筆時点において、北海艦隊はアデン湾・ソマリア沖に派遣されていないが、各種の報道によると、2010年3月から4月にかけて南シナ海において演習を行った。訓練内容にはJ-8の長距離航行、対潜戦、洋上補給などが含まれ、南海艦隊との対戦型の演習も行われたようである。中国海軍の3つの艦隊はその活動範囲を拡大するだけでなく、相互連携を進めている。つまり、3つの艦隊がばらばらに展開するというシステムは過去のものとなり、指揮命令系統は次第に統合されつつある。

このような今日の中国海軍の活動は、中国の政治指導者、軍人、そして戦略家によってどのような意義を与えられているのだろうか。アデン湾・ソマリア沖への中国海軍の派遣に際して、しばしば「和諧海洋」（調和のとれた海洋）という言葉が使用される。2009年4月、中国海軍建軍60周年の記念式典に参加した各国の海軍代表に対し、胡錦濤は「調和のとれた海洋の建設を進めることは、持続的な平和、共同繁栄の和諧世界を構築する重要な部分であり、世界各国の美しい願望であり、共に追求するものである。各国海軍の交流を強化し、国際的な海洋安全保障協力を進めることは、調和のとれた海洋の建設に重要な意義を持っている」と述べていた。解放軍報によると、アデン湾・ソマリア沖への海軍の派遣は中国と各国の海洋安全保障協力の象徴であり、「和諧海洋」を構築するための実践であるという。「和諧海洋」は、主に中国海軍の協調的側面を印象付ける際に強調されるコンセプトと考えて、大きな間違いはないであろう。

しかし、西太平洋にわたり展開している今日の中国海軍の性格を理解するためには、中国海軍が活動すべき戦略空間に関する議論に注目する必要があるだろう。2009年、徐光裕という人物が短い論説を発表し、中国は地理的国境という伝統的な「国門」観を改め、より広大な戦略空間において国益を守らなければならないと主張した。徐光裕は中国のメディアでは解放軍少将の肩書で紹介されており、2009年の論文の主張は、1987年に同じく徐光裕という人物が解放軍報において発表した論文内容と一致する。すなわち、地理的国境と異なり、国家の軍事力が実際にコントロールできる、国家利益と関係する地理的、空間的範囲の境界である「戦略的辺境」に、「国門」を押し出すべきであるという議論である。

2009年の徐光裕論文は、主に海洋における戦略空間の拡大に重点を置いて記述している。それによると、近海・大陸棚を基礎とする排他的経済水域（EEZ）の外縁は「戦略的辺境」であり、中国の「海洋国土」であるという。徐は、この「海洋国土」は、中国の生存と利益に直接関係するエネルギー、資源、貿易ルート（「戦略的通路」）そしてグローバルなシーレーンと繋がり、広大な戦略空間を構成すると論じる。その上で徐は、海洋の「戦略的辺境」と「戦略的通路」を、中国は強力で実務的な海洋戦略によって防衛しなければならないと主張する。この広大な戦略空間で活動する海軍の戦略を、徐光裕は「近岸を防衛し、近海で争い、遠洋に赴く」と要約したのである。

このような戦略空間の拡大は、人民解放軍の行動原理を正当化する理論的枠組みとして取り入れられているようである。2009年、軍事科学院・戦争理論と戦略研究部の研究者で、上級大佐でもある陳舟によって「新しい情勢における防衛的国防政策の発展」と題する論文が発表された。陳舟は中国と東南アジア諸国連合（ASEAN）との安全保障対話に出席している人物である。陳によると、①グローバル経済に中国が参入し、②大国の地政学的角逐が展開し、③外部の戦略的圧力が長期的に存在するなかで、中国の国益は外に向かわざるを得ないという。そのため、中国の国防は領土主権の外、さらに大きな範囲で国益を維持し、戦略的主導権を勝ち取らなければならないという。陳は、今日の中国の「防衛的国防政策」は「積極的に周辺地政学を形成し、防衛の前線を拡大し、海・空の防衛ラインを拡大」することで、「戦略的布陣を調整しなければならない」と論じる。つまり、外部からの圧力に抗し、中国のグローバルなパワーと影響力の漸進的拡大という「発展利益」を防衛するために、人民解放軍の行動範囲の拡大は正当化されると説明するのである。

いみじくも徐光裕が「近海で争う」と表現したように、東シナ海や南シナ海における中国海軍のふるまいはより攻撃的になってきている。2010年4月、東シナ海から西太平洋にかけての海域において、東海艦隊の10隻の水上艦、潜水艦、補給艦からなる艦隊が大規模な演習を行った。その際に中国艦艇から発艦したとおもわれる艦載ヘリコプターが、警戒監視中の海上自衛隊護衛艦に2度にわたり接近した。さらに、防衛省は発表していないが、米海軍大学のクラスカ（James Kraska）によると、警戒監視中の海上自衛隊のP-3Cに中国の艦艇が速射砲の照準を合わせたという。また、2010年3月から4月にかけての南シナ海における北海艦隊の演習は、軍事的プレゼンスによって南シナ海において「中国が持つべき海洋権益」を視覚的に主張するという方向性に位置づけられ、同海域の緊張の高まりを表している。

中国が対外行動において自己主張を強めているという指摘は、アメリカをはじめとした西側の研究者に広く共有されるようになってきている。カーネギー財団のスウェイン（Michael D. Swaine）は、特定の分野における攻撃的・対立的なトーンの外交方針に関する中国の言説をめぐり、アメリカを中心とした西側メディアと中国研究者の議論を分析した。

中国の対外行動が攻撃的になっているという見解に対し、中国の政治指導者は強く反発している。2010年3月7日、第11回全国人民代表大会第3回大会の記者会見において、楊潔篪外交部長は、中国に対する最大の誤解は何であるかとのアメリカ人記者の質問に対し、「中国の対外的な態度がますます強硬になっているという誤解がある」と答えた。楊外交部長は、国家主権、安全保障、そして発展利益を維持すること、世界の平和と発展を促進することが中国外交の役割であると説明し、「一国がその国の核心利益を維持する行為を“強硬”であるとみなしたり、他国の利益を侵すことを当然とみなしたりするならば、公理はどこにあるのか」と主張した。つまり、陳舟論文の趣旨と同様に、「核心利益」を守るための行動は、外部勢力によって脅かされている中国の利益を守るという反応であり、完全に正当化されるという説明が繰り返されている。

陳舟論文によると、「新しい情勢における中国の防衛的軍事戦略」には、軍事的威嚇能力を高め、「適時に軍事的威嚇、小規模な警告的作戦行動を実施する」ことも含まれる。これを踏まえると、4月の東海艦隊の演習中、中国の艦載ヘリが2度にわたって海上自衛隊の護衛艦に接近した事案は、軍事的威嚇、小規模な警告的作戦行動にあたる解釈することも可能かもしれない。しかし、防衛省の分析では、中国の艦載ヘリのパイロットが「海自艦に接近するな」という艦隊司令部の指示を無視して行動していたとも報道されている。中国の艦載ヘリの海自艦への異常接近は「軍事的威嚇」あるいは「小規模な警告的作戦行動」なのか、それとも指揮統制から外れた行動であるのかは判然としない。

ただし、東シナ海で中国艦が海上自衛隊のP3-Cに速射砲の照準を合わせたことが事実であるならば、ソ連（ロシア）を中心に各国間で結ばれている海上事故防止協定においては模擬攻撃にあたり、禁止事項である。今次の中国艦載ヘリの異常接近も、海上自衛隊に懸念を与えるような航行である以上、海上での不測の事態を避けるために厳に慎まなければならない。4月の東海艦隊の行動は、冷戦期の経験を踏まえた国際的規範を無視し、海上での衝突回避を回避するための努力を怠っている。この点は強く批判されるべきである。

前出のスウエインは、アメリカや西側諸国が潜在的に危険とみなしていることを、中国側が「脅威の度合いが低く、アメリカや西側諸国による中国に対する挑戦に抗するものとして完全に正当化できると性格づけている」と指摘している。4月の東海艦隊の危険行動は、スウエインの指摘の妥当性を裏付けている。中国側が衝突を回避する必要性を真剣に認識しなければ、今後、東シナ海や南シナ海において、自己主張を強める中国によって引き起こされる海上事故の防止はより難しくなるであろう。

かつて、鄧小平は「対抗するな、目立たずに力を養え、自分の足で立ち、すべきことをせよ」という外交方針をうちたてたといわれる。特に、「目立たずに力を蓄える」という部分は「韜光養晦」（とうこうようかい）という言葉が使われている。中国指導部の多数派は、この方針に従って行動してきたからこそ今日の経済的繁栄がもたらされたと考えている。その意味で「韜光養晦」は中国外交の「金科玉条」であった。ところが、今日の中国海軍は東アジア海域において「争う」姿勢を見せている。「韜光養晦」は中国海軍によってすでに大きく乗り越えられているのである。

中国の指導部が、東アジア海域でより攻撃的にふるまう中国海軍の行動を抑制し、海上における事故防止に向けて努力しなければ、同海域におけるパワー移行が衝突を伴う可能性は否定できない。東アジア海域において、新興国が台頭するときに国際環境が不安定化するという、歴史が再び繰り返されるのだろうか。

参考文献

- ・ Chinese navy's new strategy in action, *IISS Strategic Comments*, Volume 16, Comment 16-May 2010,
<http://www.iiss.org/publications/strategic-comments/past-issues/volume-16-2010/may/chinese-navys-new-strategy-in-action/>
- ・ 陳舟「試論新形勢下中国防衛性国防政策的發展」『中国軍事科学』、2009年第6期、pp63-71。
徐光裕、「中国戦略空間概念需要改変」『党政論壇』2009年12月、19ページ。『環球時報』2009年10月30日。
- ・ James Kraska, “China Set for Naval Hegemony”, *The Diplomat*, May 06, 2010,
<http://the-diplomat.com/2010/05/06/china-ready-to-dominate-seas/>

- Michael D. Swaine, "Perceptions of an assertive China", China Leadership Monitor, the Hoover Institution, No, 32.
<http://www.hoover.org/publications/clm/issues/93428619.html>
- 中居良文「中国の対外イメージ戦略」日本国際問題研究所、2010年。
<http://www.jiia.or.jp/column/201003/09-nakai.html>
- 『解放軍報』
- 『新華網』
- 『読売新聞』

1.3 海洋境界

4月27日「ロシア・ノルウェー、バレンツ海境界画定に合意」(The New York Times, April 28, 2010)

ロシア・ノルウェー両国は27日、ヨーロッパ北部大陸棚が伸びるバレンツ海と北極海の一部を巡る、40年間に及ぶ境界画定問題の解決に合意した。1980年代のロシアの地震探査によって確認された多くの石油・天然ガス田は、今回合意された境界線の両側にまたがっている。この合意によって、この海域における両国の石油と天然ガス資源の開発に弾みがつくと見られる。

記事要旨：ロシア・ノルウェー両国は27日、ヨーロッパ北部大陸棚が伸びるバレンツ海と北極海の一部を巡る、40年間に及ぶ境界画定問題の解決に合意した。この合意によって、広大で経済的に有望な海域における、石油と天然ガス資源の開発に弾みがつくと見られる。合意協定は、両国議会の批准承認を得て発効する。

ロシアのメドベージェフ大統領はオスロでの会見で、「この協定によって、多くの協同プロジェクト、就中、エネルギー分野における協同プロジェクトの道が拓けた」と述べた。ノルウェーのストルテンベルグ首相は、世界の未開発資源の4分の1が存在するともいわれる北極海の海底を誰が管理するかを巡って国際的な懸念が高まっている中であって、この協定は善意の発露であると評価した上で、「この協定は、北極沿岸2大国が抗争ではなく、協力政策を推進することを確認したものであり、北極における将来のモデルケースである」と、その意義を強調した。

境界画定協定は、両国間の122マイルに及ぶ陸上国境線を、バレンツ海の全ての島嶼を超えて北極海にまで延長する。但し、何処まで延長するかについては明記されていない。海洋境界を定める伝統的な方法は、双方の陸上国境線の間接線を境界とすることである。ノルウェーはこの40年間、西はスバルバル諸島そして東はロシア領ノバヤゼムリャ島とフランツヨシフ島の間接線を主張してきた。一方、ロシアは、陸上からほぼ直線に伸びる「子午線」を境界とすることを主張してきた。この主張に従えば、ロシアは、6万7,000平方マイルの新たなEEZを得ることになり、これはノルウェーの北海におけるEEZにほぼ等しい。ストルテンベルグ首相によれば、合意された境界は両国間の紛争海域をほぼ等分するものであるが、境界線はノルウェー領の島嶼にかなり近づいている。1980年代のロシアの地震探査によって確認された多くの石油・天然ガス田は、合意線の両側にまたがっている。

記事参照：Russia and Norway Reach Accord on Barents Sea

<http://www.nytimes.com/2010/04/28/world/europe/28norway.html?scp=2&sq=April+27+2010&st=nyt>



地図上のラインは左から子午線（ロシアの主張）、合意線、中間線

Source: Barents Observer, April 28, 2010

1.4 海運・造船・港湾

4月7日「韓国、50トン以上の船舶に AIS 設置を7月から義務付け」(Arirang, April 7, 2010)

韓国は、2010年7月から、50トン以上の全船舶に「自動船舶識別装置」(the Automatic Identification System: AIS)の設置を義務づけることになった

記事要旨：韓国は、2010年7月から、50トン以上の全船舶に「自動船舶識別装置」(the Automatic Identification System: AIS)の設置を義務づけることになった。韓国国土海洋部によれば、船舶同士や沿岸のステーションとの間で電子データを交換することで、沿岸航行情報や船舶の位置情報が確認できる。これまでは、AISの設置はタグボート、石油タンカー及び危険物運搬船にのみ義務付けられていたが、今回の決定により、貨物船や巡視船を含む全ての船舶にAIS設置規則が適用される。

記事参照：Large Vessels to Install Coastal Tracking System

http://www.arirang.co.kr/News/News_View.asp?nseq=101876&code=Ne2&category=2

4月12日「イラク、巨大港の建設決定」(Lloyd's List, April 12, 2010)

イラクはこのほど、60億米ドルの巨大港の建設を決定した。同港は将来的には、世界の10大港の1つになることを目指し、欧州の顧客に対して鉄道への積み換えルートを提供することで、スエズ運河に取って代わる港になることが期待されている。

記事要旨：イラクはこのほど、60億米ドルの巨大港の建設を決定した。同港は将来的には、世界の10大港の1つになることを目指し、欧州の顧客に対して鉄道への積み換えルートを提供することで、スエズ運河に取って代わる港になることが期待されている。しかし、同国の経済状態から、巨大港の建設計画は高望みになりかねないとの警告する声も上がっている。イラク運輸省は最近、バスラ近くに建設される港湾施設の設計契約をイタリアの企業と締結しており、2011年後半には建設契約が締結されると見られ、その後4年間の建設期間を見込んでいる。イラクの巨大港計画では、中東湾岸とトルコ北部国境、最終的には中央ヨーロッパに繋がる新鉄道網がセールス・ポイントとなっている。ドイツのメディアは、ドイツ鉄道が同事業のパートナーとなる可能性があると報じている。

記事参照：Security concerns raised over plans for \$6bn superport in Iraq

購読者のみアクセス可能

4月28日「STX Europe、ベトナムに造船所開所」(STX Europe, Press Release, April 29, and Offshore Shipping Online, April 30, 2010)

欧州最大のSTX Europeは28日、ベトナムのVung Tauに造船所を開所すると共に、建造第1船の命名式を行った。同造船所は、最高の国際水準を満たすベトナムで最新の造船所で、フル稼働すれば中型船舶を年間4隻建造可能である。

記事要旨：欧州最大のSTX Europeは28日、ベトナムのVung Tauに造船所を開所すると共に、建造第1船の命名式を行った。STX Europeの4月29日付プレスリリースによれば、STX Europeは、ベトナムで急成長するオフショア産業の中心地、Vung Tauに3,000万米ドルを超える投資を行い、域内の国際的顧客のニーズに対応する能力を強化するとしている。STX Vietnam Offshore LtdのKunt Ola会長は、開所式で「本造船所の建設と第1船の建造は、予定より早く記録的なスピードで完了した」と述べ、2007年1月に建設を開始して以来、造船所と第1船の同時建造という課題に取

組んだベトナム人チームの成果を賞賛した。同造船所は、最高の国際水準を満たすベトナムで最新の造船所で、フル稼働すれば中型船舶を年間 4 隻建造可能である。

記事参照 : STX EUROPE OPENS MODERN SHIPYARD IN VIETNAM

<http://www.stxeurope.com/?page=682&p=bd7233a861ade52afb0d28d3184fcb56>

STX Europe opens yard in Vietnam - names first offshore vessel

<http://www.oilpubs.com/oso/article.asp?v1=9474>

1.5 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

4 月 1 日「英国、『英領インド洋地域』に海洋保護区を設定」(BBC News, April 1, 2010)

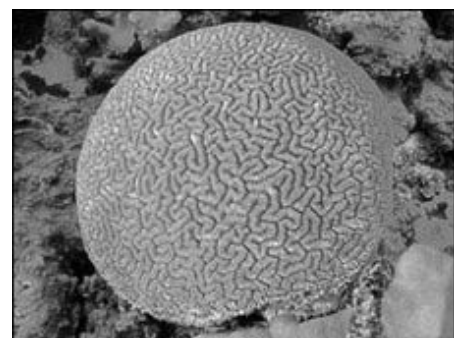
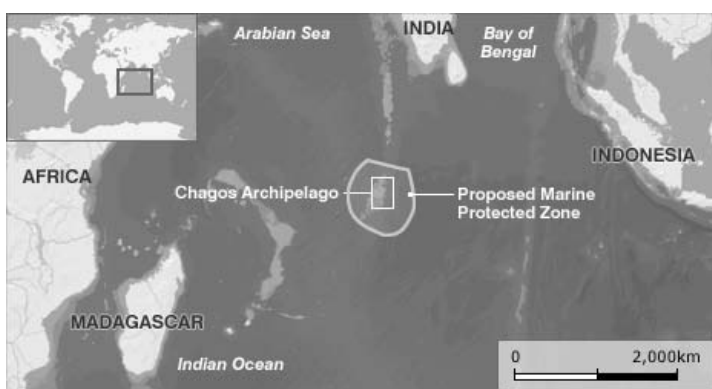
英国政府はこのほど、チャゴス諸島とその周辺海域で構成される「英領インド洋地域」周辺に、54 万 5,000 平方キロに及ぶ海洋保護区を設定した。

記事要旨 : 英国政府はこのほど、チャゴス諸島とその周辺海域で構成される「英領インド洋地域」(the British Indian Ocean Territory: BIOT) 周辺に、54 万 5,000 平方キロに及ぶ海洋保護区を設定した。チャゴス諸島海洋保護区は世界最大の海洋保護区の 1 つとなり、これによって世界の海洋保護区はその面積が倍増することになる。英国のミリバンド外務担当相は、「海洋保護区の設定は、BIOT のみならず、世界的にも、海洋保護に向けた大きな 1 歩である」と語った。チャゴス諸島には、インド洋全域で確認されたサンゴ種のほぼ半分、200 種以上のサンゴと 1,000 種以上の海洋生物が生息する、the Great Chagos Bank がある。

備考 : BIOT は、チャゴス諸島とその周辺の諸島を含め、1965 年に英国領として成立した。BIOT の南端にある最大の島嶼が、米軍基地のあるディエゴガルシア島である。

記事参照 : UK sets up Chagos Islands marine reserve

<http://news.bbc.co.uk/2/hi/science/nature/8599125.stm>



The islands are home to almost half the coral species in the Indian Ocean

Source: BBC News, April 1, 2010

2. 情報分析

2.1 2010 年第 1 四半期 IMB 報告書とソマリア海賊事案の特徴

国際海事局 (the International Maritime Bureau: IMB) はクアラルンプールにある海賊通報センター (Piracy Reporting Centre: PRC) を通じて、2010 年 4 月 21 日、2010 年第 1 四半期における (1 月 1 日～3 月 31 日) の世界で起きた船舶への海賊行為と武装強盗事案に関する報告書を公表した。IMB の定義によれば、海賊 (Piracy) と武装強盗 (Armed Robbery) とは、「強盗あるいはその他の犯罪に及ぶ明らかな意図を持って、そしてこれらの行為をするに当たって武器を使用する明らかな意図あるいは能力を持って、船舶に乗り込む、あるいは乗り込もうとする行為」をいう。この定義には、当該船舶が入港中、錨泊中、航行中のいずれを問わず、既遂、未遂の全ての行為が含まれているが、ナイフで武装していない窃盗は除かれている。

以下は、報告書の主な内容と 2010 年 4 月末までのソマリア海賊襲撃事案の特徴について、取り纏めたものである。

1. 発生 (未遂を含む) 件数と発生海域から見た特徴

2010 年第 1 四半期までに通報された全発生件数は 67 件であった。その内訳は、既遂が 37 件で、その内、ハイジャックが 11 件で、乗り込み事案が 26 件であった。未遂事案は 30 件で、その内、発砲が 18 件、乗り込み未遂事案が 12 件であった。この件数は、過去 6 年間で最も多かった 2009 年同期の 102 件 (同通年 410 件) から激減している。この主たる要因は、後述するように、アデン湾での襲撃事案が 40 件から 12 件に激減したことにある。(IMB は、これら以外に未通報の襲撃事案がかなりあると見ており、全ての船舶の船長、船主やその他の関係者に海賊事案や武装強盗事案を PRC に通報するよう慫慂している。)

表 1 に見るように、発生海域から見れば、第 1 四半期までの 67 件中、3 分の 2 以上が 6 カ所の海域で発生している。その内、アデン湾が 12 件 (2009 年同期 40 件)、紅海が 3 件 (同 1 件) で、ソマリア沖の 18 件 (同 20 件) と合わせれば、ソマリアの海賊による事案は 33 件 (同 61 件) となり、全発生件数の半分近くを占める。ソマリアの海賊が跳梁跋扈する海域では、海域が荒れる 1 月と 2 月を除いて、3 月以降、特にソマリア沿岸のインド洋での襲撃事案の増大が続いている。

その他の 3 カ所はいずれもアジアで、インドネシアが 8 件 (同 1 件)、マレーシアが 4 件 (同 2 件)、インドが 3 件 (同 3 件) となっている。他のアジアの海域では、ベトナムが 2 件 (同 4 件)、南シナ海が 2 件 (同 0 件)、バングラデシュが 1 件 (同 1 件) となっている。またマラッカ海峡での発生件数は 0 件 (同 1 件)、シンガポール海峡は 0 件 (同 0 件) であった。報告書はインドネシアの海賊対策努力を評価しているが、インドネシアでの発生件数は過去 2 年間の件数に比べれば大幅増となっている。報告書によれば、これらの事案 (既遂 6 件、未遂 2 件) はいずれも錨泊中あるいは入港中の船舶の備品などを盗む低レベルの強盗事案で、船長と乗組員に注意を呼びかけている。マレーシアの 4 件はいずれも既遂で、内 2 件がハイジャック事案であった。また、南シナ海の 2 件はいずれも乗り込み未遂事案であった。インドの 3 件は、錨泊中の乗り込み既遂事案だが、船舶備品など盗まれたのは 1 件のみであった。

襲撃事案の危険性が指摘されるもう 1 つの海域はナイジェリア沖だが、発生件数は 2 件で、2009

年同期の7件に比して大幅減となっている。報告書によれば、この海域では、多くの未通報事案があると見ている。この海域の海賊は暴力的である。

表 1：最近6年間の各年第1四半期までのアジア及びその他の多発海域での発生（未遂を含む）件数の推移

海 域	2010	2009	2008	2007	2006	2005
インドネシア	8	1	4	9	19	16
マラッカ海峡		1		2		4
マレーシア	4	2	1	1	3	2
フィリピン	1		2		1	
シンガポール海峡			1		1	2
タイ		1			1	1
南シナ海	2					1
ベトナム	2	4	1	1	1	3
バングラデシュ	1	1	2	2	9	6
インド	3	3	5	3		5
ケニア		1				
アデン湾*	12	40	5	3	7	3
紅海**	3	1				
ソマリア	18	20	1	2	5	3
タンザニア		2	4	3		
アラビア海***	2					2
インド洋****		1				
ナイジェリア	2	7	10	6	4	
各年第1四半期合計	67	102	49	41	61	56
各年通年合計		410	293	263	239	276

出典：2010年第1四半期報告書5ページの表1から作成。なお、各第1四半期合計と各通年合計は、報告書の全ての対象海域を含む件数である。

注*：アデン湾、紅海、アラビア海及びインド洋の事案は、いずれもソマリアの海賊によるものである。

2. 態様から見た特徴

表2はアジア及びその他の多発海域における2010年第1四半期における襲撃の態様を示したものである。

一方、報告書によれば、2010年第1四半期における既遂事案37件（2009年同期43件）の内、停泊中（berthed）が3件（同4件）、錨泊中（anchored）が20件（同23件）で、航行中（steaming）が14件（同11件）であった。また、未遂事案30件（同59件）の内、停泊中が1件（同0件）、錨泊中が1件（同5件）、航行中が28件（同54件）であった。

アジアの海域における事案は、マレーシアの航行中事案 2 件を除いて、全てが錨泊中や停泊中の乗り込み事案であった。夜間、これらの船舶に乗り込んで船舶備品などを盗む、この海域の海賊の特性を示している。航行中の既遂事案 14 件の内、マレーシアの事案 2 件を除いて、アデン湾 が 5 件、ソマリアが 5 件となっており、また、航行中の未遂事案 28 件の内、アデン湾が 7 件、紅海が 3 件、ソマリアが 13 件、アラビア海が 2 件で、これらの既遂、未遂事案は全てソマリアの海賊によるもので、この海域の海賊が小型高速ボートの発進基地として「母船」を使用して、航行中の船舶を襲撃する特性を反映している。

表 2：アジア及びその他の多発海域における 2010 年第 1 四半期における襲撃の態様

海 域	既遂事案				未遂事案	
	Boarded	Hijacked	Detained	Missing	Fired Upon	Attempted Boarding
インドネシア	6					2
マレーシア	2	2				
フィリピン	1					
南シナ海					2	
ベトナム	2					
バングラデシュ	1					
インド	3					
アデン湾*	1	4			5	2
紅海**						3
ソマリア		5			11	2
アラビア海***						2
ナイジェリア	2					
第 1 四半期合計	67					

出典：2010 年第 1 四半期報告書 8 ページの表 2 から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含むものである。

注*：アデン湾、紅海、アラビア海及びインド洋の事案は、いずれもソマリアの海賊によるものである。

3. 被害船舶のタイプ

2010 年第 1 四半期における全襲撃件数 67 件を船舶のタイプで見れば、最も多かったのは Chemical Tanker で 13 隻 (2010 年同期 12 隻)、次いで Bulk Carrier が 11 隻 (同 32 隻)、以下、Genera Cargo が 7 隻 (同 10 隻)、Container Ship が 7 隻 (同 16 隻)、Fishing Vessel が 7 隻 (同 3 隻)、Product Tanker が 6 隻 (同 4 隻) となっている。他に、Tug、Vehicle Carrier、LPG Tanker が各 2 隻、Ro Ro、Crane Ship、Refrigerated、Seismographic Research、Landing Craft が各 1 隻となっている。これら襲撃される件数の多い船舶のタイプは、ここ数年の傾向である。

表 3 は、ソマリアの海賊が 2010 年 3 月末までに、アデン湾・ソマリア沖 (インド洋を含む) でハイジャックした船舶の内、各タイプの代表的な船舶の諸元を示したものである。この海域における海賊襲撃事案は、未遂も含め全てハイジャックがらみの事案である。

表 3：2010 年 4 月末までのソマリアの海賊による主なハイジャック船の諸元

Name	Type	GRT	DWT	乾舷(ft)	速度(k)	乗組員
Asian Glory	Vehicle Carrier	44,818	13,363	16	18.6	25
Rim	Genera Cargo	3,493	4,800	5	14	17
Al Nisr Al Saudi	Product Tanker	2,634	5,136	3	13.6	14
UBT Ocean	Chemical Tanker	6,149	9,224	8	13	21
Frigia	Bulk Carrier	20,352	35,246	2	13	21
Talca	Refrigerated	10,298	11,055	12	18	25
Iceberg 1	Ro Ro	5,402	3,960	1	14	24

出典：U.S. Department of Transportation, Maritime Administration, List of Ships Hijacked から作成。

(このリストは不定期に更新されている。)

上表に見るように、ソマリアの海賊によってハイジャックされやすい船舶は、満載時の乾舷が比較的 low（上記表は空荷の場合）、低速（15 ノット以下）で、乗組員の少ない（平均 20～25 人前後）船舶が平均的である。

他方、ソマリアの海賊は、これまでに 3 隻の大型原油タンカー（VLCC）をハイジャックしている。2008 年 11 月 15 日にハイジャックされた、MT *Sirius Star* は、16 万 2,552GRT、31 万 9,430DWT の大型原油タンカー（VLCC）で、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では、これまでで最大であった。該船は空荷の場合は乾舷が 33 メートルだが、ハイジャック時には 200 万バレルの原油を積載しており、乾舷が 10 メートル以下になっていた。2009 年 11 月 29 日には、ギリシャ籍船の VLCC、MT *Maran Centaurus* (30 万 264DWT) がセイシェル北東約 800 カイリのインド洋でハイジャックされた。該船は、2,000 万米ドル相当の原油を積載しており、ハイジャック時 11～15 ノットの低速で、乾舷も低くなっていた。2010 年 4 月 4 日には、韓国の船社が運航する VLCC、MT *Samho Dream* (31 万 9,430DWT) がソマリア沿岸東方 970 カイリのインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされたが、該船は 1 億 7,000 万米ドル相当のイラク原油を積載しており、乾舷が低くなっていた。

4. 人的被害と使用武器の特徴

表 4 に示したように、乗組員の人的被害状況について見れば、2010 年第 1 四半期における人的被害の総数は 208 人（2009 年同期 199 人）で、2009 年同期が 2008 年同期の 33 人に比して 6 倍増であったことから、2009 年同期とほぼ同水準の高さとなっている。その内、194 人（同 178 人）が人質事案で、アデン湾が 72 人、ソマリアが 102 人で、そのほとんどを占めている。ソマリアの海賊による襲撃事案が、船と乗組員の解放とを引き替えに身代金を要求する特性を反映している。

使用武器から見ても、表 5 に見るように、2010 年第 1 四半期までの全発生件数 67 件の内、銃器が使用された事案が 33 件であった。これを発生場所から見れば、アデン湾 10 件、紅海 1 件、ソマリア 17 件で、そのほとんどがソマリアの海賊によるものである。ここでも、ロケット推進擲弾筒を含む自動火器を装備する、ソマリアの海域の海賊の特性が見られる。

表4：2010年第1四半期における発生海域毎の乗組員の人的被害状況

	Hostage	Threatened	Assaulted	Injured	Killed
インドネシア			1		
マレーシア	18				
ガイアナ	1				
アデン湾	72				
アイボリーコースト	1				
ナイジェリア				2	
ソマリア	102			10	
小計	194	1	1	12	

出典：2010年第1四半期報告書 11 ページの表 8 から作成。

表5：2010年第1四半期までの主な襲撃事案の発生場所と使用武器

	銃器	ナイフ	その他の武器	情報なし	
インドネシア			3	1	4
マレーシア	1	2			1
フィリピン		1			
南シナ海	2				
ベトナム					2
バングラデシュ		1			
インド					3
アデン湾 *	10				2
紅海**	1				2
ソマリア	17				1
アラビア海***					2
ナイジェリア	1	1			
小計	33	11	1		22
第1四半期合計	67				

出典：2010年第1四半期報告書 11 ページの表 9 から作成。なお、小計及び合計件数は報告書の全ての対象海域を含むものである。

注*：アデン湾、紅海、アラビア海及びインド洋の事案は、いずれもソマリアの海賊によるものである。

5. 2010年4月までのソマリア海賊襲撃事案の特徴

- (1) 2010年第1四半期報告書によれば、IMBの海賊通報センター（PRC）は、2010年第1四半期において、ソマリアの海賊による襲撃事案について、紅海を含むアデン湾で15件、ソマリア沖で18件、計33件の通報を受けた。内、ハイジャック事案がそれぞれ5件ずつで、人質となった船員の数は178人であった。月別に見れば、紅海を含むアデン湾では1月と2月に各1件のハイジャック事案があったのに対して、3月には3件のハイジャック事案があった。一方、ソマリ

ア沖でも、1月の1件以外は、全て3月のハイジャック事案であった。

なお、Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department (U.S. Navy) の Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information、また Somali Marine & Coastal Monitor (Ecottera International) などの各種報道資料を総合した海洋政策研究財団の調査では、この他に、紅海を含むアデン湾で2件(2月1件、3月1件)、インド洋を含むソマリア沖で3件(1月1件、3月2件)のハイジャック事案があった。また、各種の報道によれば、3月末には、インドのダウ船が12隻ハイジャックされ、100人前後が人質になった。これらの内、10隻は4月中旬頃までに解放されたとみられる。

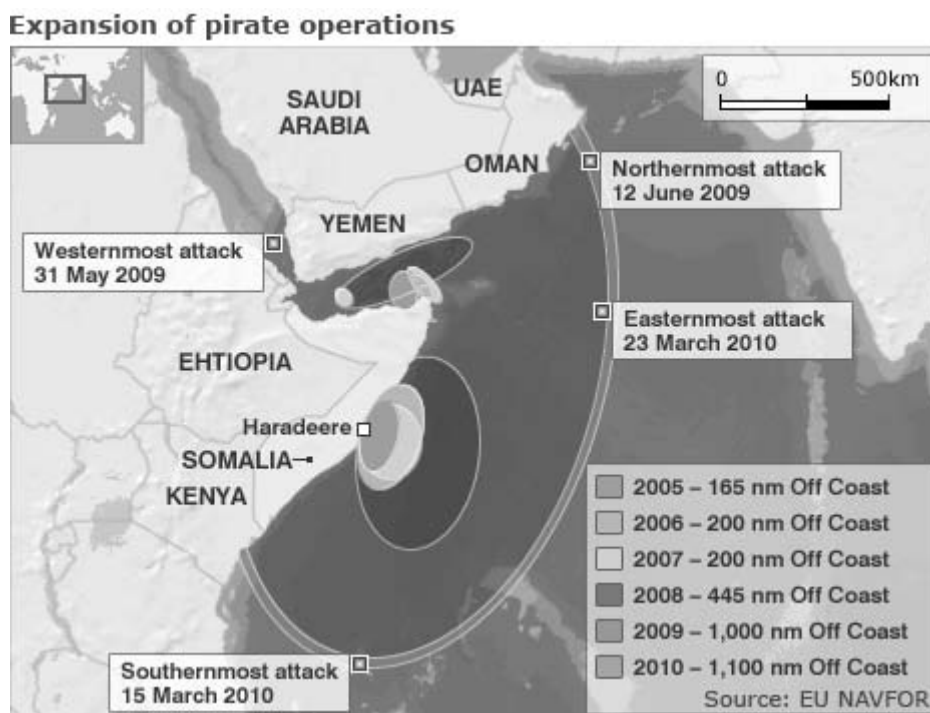
また、前記の各種情報を総合した海洋政策研究財団の調査では、4月は、紅海を含むアデン湾では1件、インド洋では5件のハイジャック事案があり、その内1件は一度に3隻のタイの漁船がインド洋でハイジャックされた事案であった。(本号、1.1 海洋治安、及び別添資料参照。)

例年のように、モンスーンの季節が終わる3月から、海賊襲撃事案が増える傾向にあるが、2010年4月までの傾向も同じである。

- (2) しかも報告書が指摘するように、ソマリアの海賊は、ますます大胆な行動を取るようになってきており、ソマリア東岸のインド洋に襲撃海域が拡散してきている。例えば、ハイジャックには至らなかったが、3月5日深夜から6日未明にかけて、ソマリアの海賊がギリシャのばら積み船をインド西岸近海で襲撃する事案があった。この襲撃事案は、彼らがソマリアから遙かに離れたインド近海でも襲撃能力を持っていることを示している。

EU艦隊(EU NAVFOR)司令官を努める英海軍のハドソン少将(RADM Peter Hudson)は4月1日、BBCとの会見で、3月に入ってからソマリアの海賊活動が再び活発化すると共に、今やインド洋がその主たる活動海域になってきている、と指摘した。

下記地図に示すように、同司令官によれば、5年前には、海賊の活動海域はソマリア沿岸沖から最大287キロ(165カイリ)しか離れていなかったが、最近では、ソマリア沿岸沖から2,037キロ(1,100カイリ)、インド沿岸沖からは926キロ(500カイリ)しか離れていないインド洋でハイジャック事案が発生している。(BBC News, April 1, 2010)



Source: BBC News, April 1, 2010

- (3) こうした、海賊の活動が活発化するに伴って、EU 艦隊、NATO 艦隊、合同海賊対処部隊 CTF-151 などの各国派遣の海軍戦闘艦は、2010 年 3 月から積極的な海賊対処活動を展開してきている。これらの艦隊に所属する各国海軍戦闘艦は、襲撃の通報を受けて襲撃現場に急行して、通常「母船」と 2 隻の小型ボートで行動する海賊グループを捉え、海賊容疑者を尋問し、発見した武器や装備を押収すると共に、「母船」と小型ボート 1 隻を破壊し、もう 1 隻に海賊容疑者を乗せて解放する、あるいはそのまま海賊容疑者を拘束するなどの対処方針を取っている。

また、4 月 5 日には、オランダ海軍のフリゲートが、ソマリア沿岸から東方 500 カイリの海域で海賊に乗り込まれたドイツ籍船のコンテナ船を救出する作戦を実施し、10 人の海賊容疑者を拘束すると共に、13 人の乗組員を無事保護した事案もあった。(本号、1.1 海洋治安参照。)

更に、3 月 23 日には、パナマ籍船の貨物船が海賊に襲撃された時、該船の武装警備チームが、襲撃した海賊に応戦し、4 人を射殺した事案であった。民間の警備要員が海賊容疑者を射殺したのは、恐らくこれが初めてと見られる。今後、武装警備チームの乗船の是非を巡って、論議が高まることが予想される。

- (4) 各国海軍戦闘艦が拘束した海賊容疑者は、これまで起訴のためケニアに引き渡されるのが一般的であった。しかし、ケニア当局は 4 月 1 日、海賊容疑者の起訴を停止すると共に、各国と締結した了解覚書の効力を廃棄するとの意向を表明した。ケニアは、EU、米国、カナダ、デンマーク、中国及び英国との間で、了解覚書を締結し、海賊容疑者の受け入れとモンバサでの裁判を行ってきた。在ナイロビの EU 代表によれば、デンマーク及び英国と締結した覚書が廃棄された。ケニアはこれまで、100 人以上の海賊容疑者を受け入れてきた。

こうした情勢に鑑み、国連安保理は 4 月 27 日、決議 1918 を全会一致で採択した。この決議は、「ソマリア沖公海上における海賊行為及び武装強盗に責任のある者を起訴できないことは国

際社会の海賊対策努力を覆すものであることを確認」した上で、「当該地域諸国を含むあらゆる国家に対し、それぞれの国内法の下で海賊を刑事罰として罰し、適用可能な国際人権法に従い、同国海岸沖で逮捕された海賊及び容疑者の起訴を検討し、有罪判決を受けた者を収監することを要請」している。各国が積極的な海賊対処活動を展開するにつれて、今後、海賊容疑者の拘束事案が増えることが予想され、その取り扱いが国際社会の大きな課題になってこよう。決議 1918 が今後どのように各国で履行されていくか、注目されるところである。

2.2 2010 年第 1 四半期におけるアジアの海賊行為と武装強盗事案 (ReCAAP2010 年第 1 四半期報告書から)

アジア海賊対策地域協力協定 (Regional Cooperation Agreement on Combating Piracy and Armed Robbery against Ships in Asia) に基づいて設立された、ReCAAP 情報共有センター (ISC) は 2010 年 4 月 27 日、2010 年第 1 四半期 (1 月 1 日～3 月 31 日) におけるアジアで発生した海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。

国際海事局 (IMB) の同種の報告書が全世界を対象としているのに対して、ReCAAP の報告書は、アラビア海からユーラシア大陸南縁に沿って北東アジアに至る海域を対象海域としている。また、IMB が民間船舶や船主からの通報を主たる情報源としているのに対して、ReCAAP の情報源は、加盟 14 カ国に各 1 カ所、これに香港の 1 カ所を加えて、15 カ所の Focal Point とシンガポールにある ISC と結ぶと共に、また Focal Point が相互に連結することで構成される、Information Sharing Web である。各国の Focal Point は沿岸警備隊、海洋警察、海運・海事担当省庁あるいは海軍に置かれている (日本の場合は海上保安庁)。そして各国の Focal Point は、当該国の法令執行機関や海軍、Port Authorities や税関、海運業界など、国内の各機関や組織と連携している。更に、国際海事機関 (IMO)、IMB やその他のデータを利用している。(なお、ReCAAP とは Regional Cooperation Agreement Against Piracy の頭字語である。ReCAAP の加盟国は、インド、スリランカ、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、シンガポール、カンボジア、ラオス、ベトナム、ブルネイ、フィリピン、中国、韓国及び日本の 14 カ国。マレーシアとインドネシアは未加盟。)

以下は、ReCAAP の 2010 年第 1 四半期報告書から見た、2010 年第 1 四半期におけるアジアの海賊行為と船舶に対する武装強盗事案の特徴である。

1. 「海賊」と「船舶に対する武装強盗」についての ReCAAP の定義

「海賊」(piracy) と「船舶に対する武装強盗」(armed robbery against ships) とは、ReCAAP・ISC の定義によれば、「海賊」については国連海洋法条約 (UNCLOS) 第 101 条「海賊行為の定義」に従って、「船舶に対する武装強盗」については、国際海事機関 (IMO) が 2001 年 11 月に IMO 総会で採択した、「海賊行為及び船舶に対する武装強盗犯罪の捜査のための実務コード」(Code of practice for the Investigation of the Crimes of Piracy and Armed Robbery against Ships) の定義に従って、それぞれ ReCAAP 協定第 1 条で規定している。

2. 発生 (未遂を含む) 件数と発生海域から見た特徴

報告書によれば、2010 年第 1 四半期の発生件数は 25 件で、その内、既遂が 20 件、未遂が 5 件であった。既遂事案 20 件の内、1 件が南シナ海での事案で、他の 19 件は停泊地や錨泊地における船舶に対する武装強盗であった。

過去 5 年間の ReCAAP の対象海域における発生件数は、表 1 の通りである。これによれば、過去 3 年間の発生件数と比較すれば、2010 年第 1 四半期の発生件数は増加している。発生場所から見れば、インドネシア、マレーシアでの襲撃事案が増えているのが注目される。

表 1：過去 5 年間の地域別発生件数

	2010		2009		2008		2007		2006	
	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂
南アジア										
アラビア海							1	2		
バングラデシュ	2		1		3		2		8	1
ベンガル湾	1						1			
インド	4		2		6		1			
スリランカ										
小計	7		3		9		5	2	8	1
東南アジア										
インドネシア	4	4	1		3	1	7	1	15	3
マレーシア	4		1		1		1		6	
フィリピン	1		1	1	1	1			1	
タイ			1						1	
ベトナム	3		4		1		1		1	
タイ湾										
南シナ海	1		1			1	1			
マ・シ海峡		1	2			2		1		
小計	13	5	11	1	6	5	10	2	24	3
計	20	5	14	1	15	5	15	4	32	4
総計	25		15		20		19		36	

出典：ReCAAP Quarterly Report (January 1, 2010 – March 31, 2010) , p.9, Table 1.より作成

3. ReCAAP の報告書に見る発生事案の重大度の評価

ReCAAP の報告書の特徴は、既遂事案の重大度 (Significance of Incident) を、暴力的要素 (Violence Factor) と経済的要素 (Economic Factor) の 2 つの観点から評価し、カテゴリ分けをしていることである。

暴力的要素の評価に当たっては、①使用された武器のタイプ (ナイフなどよりもより高性能な武器が使用された場合が最も暴力性が高い)、②船舶乗組員の扱い (死亡、拉致の場合が最も暴力性が高い)、③襲撃に参加した海賊/武装強盗の数 (この場合、数が多ければ多いほど暴力性が高く、また組織犯罪の可能性もある) を基準としている。

経済的要素の評価に当たっては、被害船舶の財産価値を基準としている。この場合、該船が積荷ごとハイジャックされる場合が最も重大度が大きくなる。

以上の判断基準から、報告書は以下のようなカテゴリ分けをしている。

Category	Significance of Incident
CAT-1	Very Significant
CAT-2	Moderately Significant
CAT-3	Less Significant

表2は、過去5年間の各第1四半期における既遂事案をカテゴリー分けしたものである。これによれば、2006年に比して、CAT-2の事案が大幅に減少している。一方で、CAT-1の事案はこの4年間、ほぼ同じ件数で推移している。停泊中及び錨泊地での事案と航行中の事案の内訳を見れば、全体として停泊中及び錨泊地での事案が圧倒的に多く、ReCAAP対象海域での事案の特徴を示している。

表2：過去5年間のカテゴリー別既遂事案件数
(カッコ内の数字は最初が停泊中及び錨泊地での事案、後者が航行中の事案件数)

	2010	2009	2008	2007	2006
CAT-1	1 (0, 1)	2 (0, 2)	1 (0, 1)	1 (0, 1)	0 (0, 0)
CAT-2	2 (1, 1)	3 (2, 1)	1 (1, 0)	0 (0, 0)	11 (5, 6)
CAT-3	17 (15, 2)	9 (9, 0)	13 (11, 2)	14 (12, 2)	21 (17, 4)

出典：ReCAAP Quarterly Report (January 1, 2010 – March 31, 2010) , p.16, Chart 2 より作成。

これによれば、過去5年間の襲撃された時の該船の状況を見れば、停泊中・錨泊中の事案が大部分で、船内の備品などが盗まれるCAT-3事案がほとんどである。2010年第1四半期の入港中・錨泊中の既遂事案16件中、15件がCAT-3で、CAT-2事案は1件であった。この点でも、ReCAAP対象海域の海賊事案の全般的な特徴を反映しているといえよう。他方、航行中に襲撃された4件の内、CAT-1が1件、CAT-2が1件、CAT-3が2件であった。航行中の事案は、良く組織された武装強盗が該船に乗り込み、船員を脅迫したり、縛り上げたりして、現金や船員の持ち物あるいは船舶の通信機器などを盗むケースである。CAT-1の事案は、2月6日にマレーシア東岸のティオマン島周辺沖で、タグ&バージがハイジャックされ、機関長が誘拐され、乗組員が放置された事案である。(OPRF 海洋安全保障情報月報2010年2月号1.1海洋治安参照。)

報告書によれば、まず暴力的要素の評価について、使用武器のタイプを見れば、2010年第1四半期の既遂事案20件中、機関銃などの高性能火器1件、ナイフと銃器1件、ナイフ・長刀など8件、非武装あるいは通報なし (None or Not Stated) が10件であった。報告書によれば、過去5年間の使用武器については、ナイフ・長刀などで武装するケースが最も多く、この点、機関銃やロケット推進擲弾筒などの高性能火器で武装しているソマリアの海賊とは異なる。銃器で武装した事案は、過去5年間に比して減少しているが、ナイフ・長刀などで武装するケースは増えている。報告書によれば、高性能火器1件は、AK-47強襲ライフルと見られる。

該船乗組員の扱いについては、2010年第1四半期の既遂事案20件中、乗組員が放置された事案が1件、脅迫された事案が1件、人質になった事案が2件あった。乗組員が殺されたり、負傷させられたり、重傷を負ったりするケースはなかった。既遂事案全体に占める各人的被害状況の割合は、過去5年間、負傷なしあるいは通報なしが大部分を占めている。

海賊/武装強盗の数については、2010年第1四半期の既遂事案20件中、1~6人グループが18件、7~9人グループが1件、9人以上のグループが1件であった。1~6人グループが大部分を占めており、これは過去5年間の傾向でもある。過去5年間、9人以上のグループが襲撃した事案は2006年同期の3件を除いて、この4年間は各1件であった。

経済的要素については、2010年第1四半期の既遂事案20件中、該船のハイジャック/行方不明が1件、船舶の備品・エンジン部品の盗難が11件、被害なしあるいは通報なしが8件であった。過去5

年間の傾向を見れば、船舶の備品・エンジン部品の盗難などの事案が多いのが、ReCAAP 対象海域の海賊事案の全般的な特徴である。貨物の強奪や該船のハイジャック事案は稀で、この点でもソマリア・アデン沖の海賊事案とは対照的である。

4. 襲撃された船舶のタイプ

2010 年第 1 四半期に襲撃された船舶のタイプについて見れば、全襲撃事案 25 件中、最も多かったのは、Bulk carrier で 5 隻(2009 年同期 4 隻)、次いで Chemical Tanker が 4 隻(同 2 隻)、Container Ship が 3 隻(同 3 隻)、General Cargo が 3 隻(同ゼロ)、Tug & Barge が 2 隻(同 3 隻) Tanker が 2 隻(同ゼロ)、Oil Tanker (including VLCC) が 2 隻(同 1 隻)、LPG Tanker が 1 隻(同ゼロ)、Pipe Carrier が 1 隻(同ゼロ)、Product Tanker が 1 隻(同ゼロ)、Fishing Boat/Trawler が 1 隻(同 1 隻) となっている。

報告書によれば、Bulk carrier は、バングラデシュ、ベトナム及びインドネシアの停泊地や錨泊地で武装強盗被害に遭っている。過去 5 年間に襲撃された船舶のタイプを見れば、海賊や武装強盗は特定のタイプの船舶を狙って襲撃しているわけではない、と報告書は指摘している。

海洋政策研究財団作成資料

アデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況

1. 2010年のハイジャック事案の状況

2010年4月30日現在

	船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船種	旗国
1	<i>Pramoni</i> (A)	1.1	2.25 (55)	24	Chemical & Products Tanker	Singapore
2	<i>Asian Glory</i> (Sy) ¹	1.1		25	Car Carrier	United Kingdom
3	<i>Faize Osamani</i> (S) ²	1.6	2.1 (26)	14	Cargo Dhow	India
4	<i>Rim</i> (A) ³	2.3		17	General Cargo	North Korea
5	<i>Ariella</i> (A) ⁴	2.5	2.5	25	Bulk Carrier	Antigua & Barbuda
6	<i>Abdul Razak</i> (A)	2.22 頃		9	Bulk Carrier	India
7	<i>Al Nisr Al Saudi</i> (A)	3.1		14	Products Tanker	Saudi Arabia
8	<i>Sakoba</i> (T)	3.3		16	Fishing Vessel	Kenya
9	<i>UBT Ocean</i> (M)	3.5		21	Chemical & Oil Tanker	Marshall Islands
10	<i>Frigia</i> (I)	3.23		21	Bulk Carrier	Malta
11	<i>Talca</i> (O)	3.23		25	Reefer	Bermuda
12	<i>Az Zabaniyah</i> (A)	3.24	4.5 (17)	12 (1)	Fishing Vessel	Yemen
13	<i>Iceberg 1</i> (A)	3.29		24	Ro Ro Vessel	Panama
14	<i>Jin-chun Tsai No. 68</i> (S) (日春財 68 号)	3.30		14	Fishing Vessel	Taiwan
15	12 <i>Indian Dhows</i> (Sy) ⁵	3.30 前後	4 月中旬頃 までに 10 隻解放	100 人 前後	Cargo Dhow	India
16	<i>Al-Barari</i> (S)	3.31		11	Bulk Carrier	Dubai
17	<i>Samho Dream</i> (S) ⁶	4.4		24	VLCC	Marshall Islands
18	<i>Taipan</i> (S) ⁷	4.5	4.5 (1)	15	Container Ship	Germany
19	<i>Yasin C</i> (K)	4.7	4.9 (2)	25	Bulk Carrier	Turkey

	船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船種	旗国
20	<i>RAK Afrikana</i> (Sy)	4.11		26	Ro Ro Vessel	St Vincent & Grenadines
21	3 Thai Fishing Vessels (I) <i>Prantalay No.11,12,14</i>	4.18		77	Fishing Vessel	Thailand
22	<i>Voc Daisy</i> (A)	4.21		21	Bulk Carrier	Panama

出典：“Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January – 31 March 2010,” ICC International Maritime Bureau (IMB), April 21, 2010, pp.34-35. Somali Marine & Coastal Monitor (Ecottera International). Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information (Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department, U.S. Navy). List of Ships Hijacked (U.S. Department of Transportation Maritime Administration). 及びその他の報道資料から作成。

備考：上記表中の (A) はアデン湾、(O) はオマーン沖でのハイジャック事案を示す。インド洋海域については、(S) はソマリア沿岸東方沖、(K) はケニア沖、(M) はマダガスカル沖、(Sy) はセイシェル近海、及び (T) はタンザニア沖周辺でのハイジャック事案、(I) はこれら海域より遠隔のインド洋でのハイジャック事案を示す。3月までの船舶名の網掛けはIMB報告書以外の資料による事案を示す。

- 1： 該船をハイジャックした海賊は、1,500万米ドルという前例のない高額の身代金を要求しているといわれる。該船は、韓国製の自動車2,405両を積載して、シンガポールからサウジアラビアに向かっていた。(Reuters, February 3, 2010) 該船は海賊の「母船」として利用されているようである。4月8日付のSofia News Agencyの報道によれば、1月にハイジャックされて以来、4月までに3度、海賊の「母船」として襲撃時に利用されたようである。
- 2： 該船は、「母船」として使用されていたと見られる。該船は、1月29日にソマリア沿岸を離れたMV *Asian Glory* と荒天のソコトラ島北東約150カイリの海域で30日に会合し、該船をハイジャックした5人の海賊は同船に乗り移り、該船を放棄した。この間、NATO艦隊所属のデンマーク海軍フリゲート、HDMS *Absalon* が監視しており、海賊が該船を放棄した後、乗組員を支援した。(Trade Winds, February 2, Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, February 2, and Ecottera International, February 4, 2010)
- 3： 該船は、リビアのWhite Sea Shippingの所有。
- 4： 該船は、インドネシアに向けて、各国海軍が哨戒するアデン湾の安全回廊(IRTC)を他の船舶と集団で航行中、ソマリアの海賊に乗り込まれた。該船は、救難信号を発信すると共に、海軍部隊が武力行使も行えるよう、自分達が船の居住区に閉じこもっていることを通報した。インド海軍の駆逐艦、INS *Tabar* が受信し、各国戦闘艦、哨戒機に通報した。フランス海軍の哨戒機が15分以内に該船甲板上に海賊を視認し、NATO艦隊所属のデンマーク海軍フリゲート、HDMS *Absalon* に通報した。同艦はヘリを発進させると共に、特殊部隊が該船に乗り込み、乗組員を救助した。同時に付近にいたロシア海軍駆逐艦、*Neustrashimy*からも特殊部隊が該船に乗り込み、海賊の小型ボート1隻を確保した。しかし、海賊の内、数名は逃亡したと見られる。(Maritime

Security Centre, Horn of Africa, Press Release, February 5 and Trade Winds, February 5, 2010)

- 5: これらのダウ船はインド・グラジャート州の海運業者の所有である。同州の業者は、この種のダウ船を、東アフリカ沿岸とアラビア半島との間で1世紀以上にわたって運航している。これらのダウ船は400～500トンで、最大速度は6～7ノットで、海賊の母船には不向きとされる。4月20日付の *Ecoterra International* によれば、3月末前後に12隻のダウ船がハイジャックされ、4月20日現在、2隻を除いて、10隻が解放されたという。(なお、隻数については、9～11隻との報道もあり、また人質の数についても90～120人と幅がある。)
- 6: 韓国外交通商部の5日の発表によれば、マーシャル諸島籍船で、韓国の船社が運航する *VLCC*、*MT Samho Dream* (319,000DWT) は4日、1億7,000万米ドル相当のイラク原油を積載して、米国のメキシコ湾に向けて航行中、ソマリア沿岸東方970カイリのインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。ソマリアの海賊による *VLCC* のハイジャックは、これが3隻目である。
- 7: オランダ海軍のフリゲートは5日、ソマリア沿岸から東方500カイリの海域で海賊に乗り込まれたドイツ籍船のコンテナ船を救出する作戦を実施し、10人の海賊容疑者を拘束すると共に、13人の乗組員を無事保護した。

2. 2009年のハイジャック事案中、2010年1月以降の解放状況

2010年4月30日現在

	船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船種	旗国
1	<i>Win Far 161</i> (Sy) ¹	4.6	2.11 (301)	30 (3)	Fishing Vessel	Taiwan
2	<i>Shгаа-Al-Madhi</i> (A)	4.8		13	Fishing Vessel	Sudan
3	<i>Al Khaliq</i> (Sy)	10.22	2.9 (110)	24	Bulk Carrier	Panama
4	<i>Lynn Rival</i> (Sy) ²	10.23		2	Yacht	United Kingdom
5	<i>Thai Union 3</i> (Sy)	10.29	3.7 (130)	25	Fishing Vessel	Thailand
6	<i>Filitsa</i> (Sy)	11.11	2.1 (81)	22	General Cargo	Marshall Islands
7	<i>Theresa VIII</i> (S)	11.16	3.16 (120)	28	Chemical Tanker	Virgin Island
8	<i>Red Sea Spirit</i> (A)	11.20			General Cargo	Panama
9	<i>Maran Centaurus</i> (Sy) ³	11.29	1.18 (49)	28	Crude Oil Tanker (VLCC)	Greece
10	<i>Shazaib</i> (Sy) ⁴	12.6	1.2 (27)	29	Fishing Vessel	Pakistan
11	<i>Nefeya</i> (S)	12.6		13	Cargo Dhow	India
12	<i>Al Mahmoud 2</i> (A)	12.18	1.8 (21)	15	Cargo Vessel	Yemen
13	<i>Socotra 1</i> (A)	12.25		6	Cargo Dhow	Yemen
14	<i>Navios Apollon</i> (Sy)	12.28	2.28 (62)	19	Bulk Carrier	Panama
15	<i>St James Park</i> (A)	12.28		26	Chemical Tanker	United Kingdom

出典：“Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January – 31 December 2009,” ICC International Maritime Bureau (IMB), January 18, 2010, pp.60-66, p.72, をベースに、他に、Somali Marine & Coastal Monitor (Ecottera International), Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information (Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department, U.S. Navy), List of Ships Hijacked (U.S. Department of Transportation Maritime Administration), 及びその他の報道資料を参照して作成。

備考：上記表中の (A)はアデン湾、(O)はオマーン沖、(S)はソマリア沖、(K)はケニア沖・(M)はマダガスカル沖・(Sy)はセイシェル近海・(T)はタンザニア沖のインド洋でのハイジャック事案を示す。船舶名の網掛けは IMB2009 年年次報告書以外の資料による事案を示す。

注*：1：該船は台湾の高雄の「穩發漁業公司」に所属する漁船で、漢字表記は「穩發 161」である。拘留中に、栄養失調、病気や長期拘留によるストレスで 3 人が死亡した。該船は、海賊の「母船」として使われていた。(BBC News, February 11, 2010)

2：このヨットに乗っていた英国人夫婦 (夫 58、妻 55) は、ハーラーデーレ近くの陸上に拘束されている。人道団体が解放を呼びかけており、支援も行っている。ヨットは既に放棄さ

れ、英海軍に回収されて、本国に持ち帰られている。(Ecottera International, February 11, 2010)

- 3 : 該船は、2009年11月29日にセイシェル北東約700カイリの海域でハイジャックされた。ハイジャック時、該船は200万バレルの原油（約1億5,600万米ドル相当）を積載していた。ハイジャックに関係したという海賊の話によれば、身代金は700万米ドルといわれ、その内、550万米ドルがVLCCの甲板にへりで投下され、残りの150万米ドルが銀行に振り込まれたといわれる。身代金の配分を巡っては、関係した2つの海賊グループ間で争いがあり、2人が死亡したといわれる。(The Wall Street Journal, January 19, 2010)
- 4 : ソマリアの海賊は、2010年1月2日にセイシェル近海で英国籍船、MV *Asian Glory* をハイジャックした際、該船を「母船」として使用したとされる。該船は1月2日、セイシェル北方9000カイリのインド洋で解放され、EU艦隊に保護された。(EU NAVFOR, Somalia, Press Release, January 4, 2010)

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)